

スポーツ庁国庫補助事業
令和6年度 地域スポーツ推進体制基盤強化事業
活動報告書



公益財団法人 群馬県スポーツ協会

【目 次】

- 1 あいさつ
- 2 令和3年度の提言に対する令和6年度実績の振り返り
- 3 計画したアクションプランに対する令和6年度実績評価
- 4 課題のスケジュール・アクションプラン実行スケジュール
- 5 スポーツによる地域課題の解決に向けた取組の推進
 - I 地域スポーツ推進団体連絡会議
 1. 委員名簿
 2. 地域スポーツ推進団体連絡会議議事要旨
 - ① 第1回連絡会議
 - ② 第2回連絡会議
 - ③ 第3回連絡会議
 - ④ 第4回連絡会議
 - II 各種研修会
 1. ブロック別研修会
 - ① 東毛ブロック
 - ② 北毛ブロック
 - ③ 西毛ブロック
 - ④ 中毛ブロック
 2. 日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成講習会
 3. フォローアップセミナー
 4. 実技研修会
 - ① ボッチャ研修会
 - ② 車椅子バスケットボール研修会
 - III 現地調査
全国登録に向けた県内クラブの現地調査
東毛地区：①ちよだスポーツクラブ
②特定非営利活動法人あいおいスポーツクラブ
③一般社団法人群馬国際スポーツ交流会
中毛地区：④吉岡総合スポーツクラブ
 - IV 登録審査委員会
 1. 全国登録クラブの実態調査
 - ① うすねニューススポーツクラブ
 - ② 特定非営利活動法人館林ジョイススポーツクラブ
 - ③ 一般社団法人Fohlen スポーツアカデミー
 - ④ 特定非営利活動法人Lion networks
 2. 事前書類審査
 3. 第1回登録審査委員会
 4. 第2回登録審査委員会

あ い さ つ

令和6年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業報告書の巻頭にあたり一言申し上げます。

本事業は令和3年度から、国庫補助により事業を展開し、今年で4年目となります。今年度の主な取組は、以下の通りです。

- I 地域スポーツ推進団体連絡会議
- II 各種研修会
- III 現地調査
- IV 登録審査委員会

詳細については、後ほど各章でふれますが、今年度注力したのは、昨年度に引き続き「各クラブの体力及び指導者（運営者）の充実」でした。具体的には、アクションプラン「1-① 各クラブの人材育成及び確保のためアシスタントマネージャー養成講習会」を昨年度に引き続き開催できたこと、県内各クラブに対して、「全国登録に向けた」という切り口と「全国登録クラブの実態」という切り口でクラブに対してアドバイスをを行い、共有できました。前者は現地調査として、後者は登録審査委員会の事業の一環として実施しました。キーワードは、「法人化」、「地域との融合」「若年層への働きかけ」で、忘れてはいけないのが「財源確保」でした。

また、昨年度以前なかなか連携を図れなかったパラスポーツに注目し、試みました。アクションプラン「3 インクルージョン社会を目指した活動普及」においてボッチャ研修会と、車椅子バスケットボール研修会を開催できました。

もとより、総合型地域スポーツクラブは自主自立が原則の活動です。本事業のように国庫補助事業として事業展開できているうちは多少なりとも財源の支援が可能ではありますが、この国庫補助事業が未来永劫継続する保証は全くありません。それまでに自らの体力を充実させる。そのためには、地域の若年層の人たちに積極的に参画してもらうことを働きかけることが重要であると考えます。

幸にも本事業の当初から経験している私から見えた4年間の講習会、研修会の外部講師の共通項は「何からできるだろう」と常に肯定的に捉えている姿でした。「できない理由を挙げ連ねること」ではなく、です。

少子高齢化が進み地域に子どもが少なくなることは避けられません。そのためにもクラブのスタッフ、会員に若年層が加わることは必須条件です。

地域スポーツクラブの存在意義は、年々大きくなっており、「運動部活動改革」に付随した部活動地域展開の「地域としての受け皿」への期待は大変大きく、スポーツ少年団、その他のスポーツ関係団体とともに、今後更なる整備や再編が進められることを求められています。

本報告書が、群馬県における地域スポーツの課題の解決や、県内各スポーツクラブ、関係団体における参考資料となることができ、さらには、広く群馬県民のために「明るく豊かなスポーツ健康立県」の実現の一助となれたら幸甚に存じます。

公益財団法人群馬県スポーツ協会
事務局長 本事業座長 高田 勉

2 令和3年度の提言に対する令和6年度実績の振り返り

(令和4年度の協議の過程で、令和3年度の提言等の一部見直しを行った)

(令和3年度に定めた提言)

1. 人材育成プログラム開発

令和5年度から順次移行する学校部活動の休日の運動部活動の地域移行を円滑に進めるために、学校と地域を繋ぐ「コーディネーター」と「アシスタントマネジャー」を養成する研修会を開催する。また、地域スポーツクラブの財源確保に必要な人材育成並びに部活動指導者に対する共通プログラムを用いた育成を積極的に行う。

【評価】

- 昨年度に引き続きアシスタントマネジャー養成講習会を実施しましたが、残念ながら参加者が少なかった(9名)と思います。人材育成を推進するためにも本事業を継続実施し、公認スタートコーチ(ジュニア・ユース)も含め、資格の有用性を各クラブやスポーツ少年団等の関係者に理解してもらえよう、適切な情報提供や呼びかけを行うことが必要であると感じました。

2. 子どもの体力向上等のプログラム開発と普及啓発

子どもの体力向上のために、ACPの普及啓発並びにタブレット等を活用して教育DXにふさわしいプログラムを県内大学と協働・連携して開発する。

【評価】

- ACPの普及啓発については、今年度も特設普及・啓発活動は実施しておりませんが、日本スポーツ協会が主催する講習会が、2年連続群馬県会場で実施されているため各市町村のスポーツ少年団事務局あてに情報提供を行いました。今後の課題として、「子どもの体力向上等」のプログラム開発に向け、高校生や大学生を含めた「若者の力を活用する」ことで、「人材の継続・育成」に繋げていければと感じました。

3. インクルージョン社会を目指した活動普及

障害者スポーツ参加を高めるために、健常者と障害者の垣根を超えたイベントを各団体が協力して企画運営する。

【評価】

- 令和6年度はバリアフリー社会を必要とする人々が自由に参加し、尊重し合い、支え合うことができるスポーツ環境を構築するために一般社団法人群馬県パラスポーツ協会の共催をいただき、ボッチャと車椅子バスケットボールの実技研修会を実施することができました。参加者が少なかったため(ボッチャ35名、車椅子バスケットボール38名)、健常者と障害者の相互理解を深めるためには、本事業の継続実施や拡大が必要であると感じました。

4. スポーツ力によって地域活性化へ

スポーツによって地域活性化ができる地域スポーツクラブを育成し、地域の魅力を発信できるスポーツコミッションが組織できるように支援する。

【評価】

- 全国登録に向けた県内クラブについて、活動概要の説明、実施種目の見学・調査、クラブ代表との打合せ等を内容に、地域スポーツ推進連絡会議委員による実地調査を行い、クラブの課題解決に向けた意見交換を行いました。今後、部活動の地域展開やスポーツ少年団と総合型の連携（統合）、スポーツを通じた街づくりのための取り組み等、様々な課題が地域スポーツクラブに求められてくる事が想定されますので、各団体間の連携を一層促進し、様々なニーズに応えられるクラブ像を研究していく必要があると感じました。

5. 各団体間の円滑な情報共有化を促進する

地域スポーツ推進連絡会議は、今後も継続して開催し、各団体間を繋ぐ会議体として活動が継続できるようにする。また、オンライン会議システムを県スポーツ協会として常時使用できるようにシステムを構築する。

【評価】

- 総合型クラブ、スポーツ少年団、スポーツ推進委員等の地域スポーツ団体関係者で構成する地域スポーツ連絡会議を年4回定期的開催し、総合型クラブの自立と質の向上に向けた議論を行いました。スポーツを通しての地域活性化を推進する上でも、未設置地域への働きかけが急務と考えます。そのために、関係団体や行政と連携し、対策を講じる必要があると感じました。

（6年度実績の振り返り）

- 令和6年度は検討課題として、「人材育成」と「全クラブの質的充実と持続可能なクラブ運営」の以上二点をメインテーマに取り組んでまいりました。その目的を達成するため、アシスタントマネージャー養成講習会や、フォローアップセミナー等の様々の事業を開催し一定の成果が得られたと感じています。今後、様々な課題が地域スポーツクラブに求められてくる事が想定される中、「人材の育成及び確保」は不可欠と感じています。そこで令和7年度も今年度の検討課題を継続テーマとし、特に高校生や大学生を含めた「若い世代の人材をどのように起用・確保するか」にスポットをあて、委員の皆様と創意工夫を重ね成果をあげていければと考えています。また、公益財団法人群馬県スポーツ協会としても、迅速な情報提供ができるようHPの充実を図るとともにオンラインシステムの構築に向け研究を推進していきたいと考えています。

3 計画したアクションプランに対する令和6年度実績の評価

令和4年度以降のアクションプラン項目	評価
1. 先進的な人材育成プログラム開発	
① 令和4年度から人材育成に必要な財源を支援する	B
2. 子どもの体力向上等のプログラム開発と普及啓発	
① ACPの全県下への普及啓発活動	B
② 大学等と協働・連携して、プログラム開発、データ収集と分析	C
③ 高等学校等と連携して、地域活動に興味がある生徒たちの活動の場としてプログラム構築に参画してもらう	C
3. インクルージョン社会を目指した活動普及	
① 障害者スポーツの普及啓発活動	A
② 県スポーツ協会と県パラスポーツ協会共同イベントの開催	A
4. スポーツカによって地域活性化へ	
① 各自治体は、総合型クラブが組織されていない地域に対して、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会を中心に地域スポーツクラブ育成を促進するための予算措置を行う。	C
② 温泉、山歩き、スキー・スケート等観光・レジャー資源に恵まれている特性を活かして各地域がスポーツカで地域の魅力を発信する	B
5. 各団体間の円滑な情報共有化を促進する	
① 年間4～6回程度、定期的に各団体間で情報共有するために会議を開催する。	B
② 県スポーツ協会は、円滑に情報交換できるようにオンラインシステムを構築する。また、使用方法についても研修会を併せて開催する	C

【評価記号について】

- A・・・計画どおりに実施できた
- B・・・一部計画どおりに実施できた
- C・・・実施に向けて取り組んでいる
- D・・・全く または ほぼ実施できていない

【アクションプランに対する年間実績自己評価】

昨年度に引き続きアシスタントマネジャー養成講習会が開催されましたが、参加者が非常に少なかったです。資格の有用性を各クラブやスポーツ少年団等の関係者に理解してもらうことが必要と感じました。また、「5」の各団体間の円滑な情報共有については、一層促進することが必要と感じました。創設を目指すクラブには、全国登録に必要な条件を周知し設立支援を行っています。既存するクラブには、運営基盤を強化することで全国登録ができるよう指導・助言を行っています。

4 課題のスケジュール・アクションプラン実行スケジュール

【課題に対応したスケジュール】

項目	R3	R4	R5	R6	R7	R8
(現行)県スポーツ推進計画	→					
総合型クラブ登録・認証制度	→					
スポーツ少年団改革プラン	→					
休日の部活動地域移行	→					

【実行スケジュール】★は実施 ☆は未実施または未達成 ◎は重点項目

項目	R6	R7	R8
1. 先進的な人材育成プログラム開発			
① 人材育成に必要な財源を支援する	★	◎	☆
② クラブ運営に若い人たちに参画してもらう（新規）		◎	
2. 子どもの体力向上等のプログラム開発と普及啓発			
① ACPの全県下への普及啓発活動	★	☆	☆
② 大学と協働・連携して、プログラム開発、データ収集と分析を行う	☆	☆	☆
③ 高等学校等と連携して、地域活動に興味がある生徒たちの活動の場としてプログラム構築に参画してもらう	☆	☆	☆
3. インクルージョン社会を目指した活動普及			
① 障害者スポーツの普及啓発活動	★	☆	☆
② 県スポーツ協会と県パラスポーツ協会共同イベントの開催	★	☆	☆
4. スポーツ力によって地域活性化へ			
① 各自治体は、総合型クラブが組織されていない地域に対して、スポーツ少年団、スポーツ推進員を中心に地域スポーツクラブ育成を促進するための予算措置を行う。	☆	◎	☆
② 温泉、山歩き、スキー・スケート等観光・レジャー資源に恵まれている特性を活かして、各地域がスポーツ力で地域の魅力を発信する	★	☆	☆
5. 各団体間の円滑な情報共有化を促進する			
① 年間4～6回程度、定期的に各団体間で情報共有するために会議を開催する	★	☆	☆
② 県スポーツ協会は、円滑に情報交換できるようにオンラインシステムを構築する。また、使用方法についても研修会を併せて開催する	☆	☆	☆

◎重点項目

- 行政担当者に総合型クラブの理念や意義並びに登録認証制度についてしっかり理解していただき、クラブ創設や育成に注力し、積極的な働き掛けがより必要であると考え、1-①アシスタントマネージャー養成講習会の開催と関係に伴う受講者の参加者への働き掛け、4-①クラブの巡回を重点目標としたい。
- 各クラブ等が今後継続していくためには、「若者の力は欠かせない」との考えから、1-②を重点目標として付記したい。

I 地域スポーツ推進団体連絡会議

【地域スポーツ推進団体連絡会議 委員名簿】

- 1 神 久 直 巳（群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課長）
- 2 橋 憲 市（群馬県教育委員会健康体育課長）
- 3 菅 谷 美沙都（上武大学ヒューマン情報学部スポーツ健康マネジメント学科講師）
- 4 蜂須賀 信 也（群馬県スポーツ推進委員協議会会長）
- 5 中 澤 則 行（群馬県公認スポーツ指導者協議会副会長）
- 6 狩 野 誠（群馬県スポーツ少年団指導者協議会運営委員長）
- 7 小野里 順 子（群馬県スポーツ協会理事）
- 8 平 林 知 巳（群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長）
- 9 小 出 利 一（群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会副会長）
- 10 奈 良 吉 造（群馬県パラスポーツ協会事務局長）
- 11 小 林 秀 光（群馬県スポーツ協会クラブアドバイザー）
- 12 高 田 勉（座長・群馬県スポーツ協会事務局長）

第1回群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議 議事要旨

日 時：令和6年7月9日（火） 14：00から

会 場：群馬県庁 14階 141会議室

出席者：神久直巳委員、菅谷美沙都委員、中澤則行委員、狩野誠委員、小野里順子委員、平林知巳委員、小出利一委員、奈良吉造委員、小林秀光委員、高田勉委員

オブザーバー：代田英敏係長、六本木哲弥主任（スポーツ振興課）

欠席者：橋憲市委員、蜂須聖司委員

事務局：小林武広課長、高橋舞主任（全体進行）、吉井均年度雇用職員（報告・記）

※前ページの委員名簿に蜂須賀信也氏の記載があり、上記連絡会議の欠席者に蜂須聖司氏の記載があるのは、当方と県当局の情報確認が不十分だったことによります。（蜂須聖司氏は令和6年7月17日に逝去されました）

1 開 会

2 あいさつ

（公財）群馬県スポーツ協会 高田 勉 事務局長

- ① 基盤強化事業は今年度で4年目を迎える。1年目・2年目は委員の皆様にご迷惑をかけましたが、昨年度あたりから特に「クラブと人材の育成」等を中心に、事務局も主導的にやらせていただいた。
- ② 今年度につきましても、参考資料に記載させていただいた持続可能な運営、アシスタントマネジャー養成講習会の開催等、様々な計画が議題で図られると思うが、部活動改革を含めて様々な課題がある取り組みと認識している。今年度も委員の皆様のお知恵をいただき、年度末にはまとめができればと考えているのでよろしくお願いしたい。

3 自己紹介

4 報告事項

1) 令和6年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業について

- ・「事業の目的」「推進団体連絡会議の設置・開催」「事業計画書及び収支予算書」等について、参考資料に沿って事務局より報告を行う。

2) 令和5年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業活動報告書について

- ・「令和5年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業活動報告書」について、意見等があれば事務局まで連絡をお願いしたい。

5 座長選出

- ・基盤強化事業の事務局が県スポーツ協会にあるため、高田事務局長を選出

6 議事

1) 令和6年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業計画について

【事務局からの説明・提案】

- ① 令和6年度では、「人材育成（アシスタントマネジャー養成講習会、フォローアップセ

ミナーの開催) に関すること」

- ② 「全クラブの質的充実と持続可能な運営に関すること」
- ③ 「令和3年度策定した、5つの提言を実現するためのアクションプランの継続的な推進に関すること」の3点を本年度の事業テーマに捉え、「地域スポーツ推進団体連絡会議・講習会・実地調査」「中間支援組織登録審査委員会」「ブロック別事業」「講習会」の順に事業計画(案)を説明する。

【委員からの質問や情報提供等】

高田委員より

- ・(※) のついた事業がスポーツ庁国庫補助事業令和6年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業に連動している旨の説明があったが、5月に提出した収支予算に盛り込まれているのか?

小出委員より

- ・スポーツ庁国庫補助事業令和6年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業の予算については、全国から総額で81,597,619円の要求があった。当初予算は78,231,970円で、つまり予算額に対して104%、4%位オーバーして要求が各都道府県から出された。過去毎年度使い切れていないため、JSPOとしては査定しないと判断している。新潟県が7,725,700円、三重県が5,455,690円、岐阜県が4,174,000円等、人件費として要求しているケースが多い。
- ・第2回の推進団体連絡会議の開催日が、9月20日で、第3回が1月19日になる。昨年の予算執行状況が72~3%で、100%でなかったため、なるべく100%に近づきたい。9月の時点で一度精査し予算書の執行状況によっては、別の事業を実施してはどうか。各委員に今後の執行状況も含め判断をいただく必要があるのではないかと検討いただきたい。

平林委員より

- ・パラスポーツ実技研修会の日程が、11月3日(日)の群馬マラソンと重なっているため、参加者が群馬マラソンへ参加してしまうのではないかと。

【回答】

- ・5月に提出した収支予算にすでに盛り込まれている。
- ・パラスポーツ実技研修会の募集対象者を総合型地域スポーツクラブの関係者を対象に考えているので、11月3日(日)でお願いしたい。
- ・9月~1月までの間にすき間があるので、そこまでの予算執行管理をしたうえで、第2回推進団体連絡会議に提示する。執行残が多くある場合は、臨時の推進団体連絡会議の開催を含みお願いしたい。

【決定事項】

- ①第2回地域スポーツ推進団体連絡会議の日程が、9月20日(金)に訂正され、他の地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業計画は全て承認された。

2) 全国登録に向けた県内クラブの实地調査について

【事務局からの説明・提案】

- ① 県内クラブの質的充実を図るとともに、登録認証制度への理解を深めるために实地調査を行う旨を説明する
- ② 全国登録を行っていない県内クラブから、小林クラブアドバイザーが情報収集し、中毛地区1クラブ、東毛地区3クラブの4クラブを選出したことを説明する。
- ③ いずれか1クラブへの協力を全委員に依頼する。希望クラブについては本会議で決定することを依頼する。基本1クラブに3名を考えているが、状況によっては、増減もやむを得ないことを説明する。
- ④ 「謝金」「旅費」が支出されることを説明する。

【対象クラブ】

- ① 吉岡総合スポーツクラブ（中毛地区：吉岡町）
- ② NPO 法人あいおいスポーツクラブ（東毛地区：桐生市）
- ③ （一社）群馬国際スポーツ交流会（インテル大泉）（東毛地区：大泉町）
- ④ ちよだスポーツクラブ（東毛地区：千代田町）

【決定事項】

- ・対象4クラブが承認される。

【希望クラブ・決定事項】

- ・小出委員：NPO 法人あいおいスポーツクラブ、（一社）群馬国際スポーツ交流会（インテル大泉）
- ・狩野委員：ちよだスポーツクラブ

※神久委員、菅谷委員、中澤委員、小野里委員、平林委員、奈良委員、小林委員、高田委員については、特に希望クラブがないため、日程次第で参加させていただく。

【事務局からの補足説明】

- ① 対象クラブとの日程調整の結果、都合が合わないケースも考えられるが、3～4名で調整しても予算の範囲以内なので問題ない。
- ② 最終調整で日程変更も可能であることを確認する。4クラブの日程が決まり次第、全委員に周知し、希望クラブとは別のクラブに変更されることも可としたい。
- ③ 7月の末頃からスタートする事を目安に考える。訪問時間は概ね1時間程度でお願いしたい。（ヒアリングや活動状況の視察等）
- ④ 本日欠席された、橋委員、蜂須委員には、日程調整後意向確認を行う。

3) 公認アシスタントマネジャー養成講習コースについて

【事務局からの説明・提案】

- ① 開催要項（案）の、「目的」「日程」「テキスト」「検定試験」「参加費用」「申込方法」等を中心に説明する。
- ② 「テキスト」は、JSPO 指導者マイページより、受講者が直接ご購入する旨を記載した。

- ③ 定員を 40 名程度と考えているが、40 名を超えた場合でも、原則県内の対象者であれば受け入れたい旨を説明し、開催要項（案）について審議を依頼する。

【委員からの質問や意見】

小出委員より

- ・今年度は開催会場が県庁になるため、参加者の駐車場や駐車券の関係はどのようになっているのか。
- ・参加者に支払を求めるならば問合せ先等に記載しておく必要があるのではないか。

【回答】

- ・駐車券の発行はスポーツ振興課で検討したい。
- ・40 名の参加者では認証機の使用はできない。
- ・県協会が一次承認者のため、承認事項の特記欄にその旨を記載することもできる。

【決定事項】

- ① 開催要項（案）について承認される。
- ② 駐車代について要項に記載する事が可能なのか JSPO に確認する。
- ③ 支払いを求める場合は必ず記載する。

【事務局からの説明・提案】

- ① 日程表（案）について説明する。
- ② 本講習会の「カリキュラム」は、専門科目 35 時間の内、集合時間 14 時間の実施について説明する。
- ③ 2 日間の日程の中で、14 時間に検定試験を含めた日程案について説明する。

【決定事項】

- ① 日程（案）について承認される。

【事務局からの説明・提案】

- ① JSPO が定める「講師基準」「提出書類」関係一覧について説明する。
- ② 申請書類の提出期限が 2 ヶ月前となることから、今後の会議日程から考えると、本日の会議で、講師基準を満たす候補者について推薦依頼を行う。
- ③ 事務局としては県内在住の講師を基本に考えていることを説明する。
- ④ 特に推薦者がなければ、県内関係では、昨年度講師を勤めていただいた、菅谷美沙都委員（上武大学ビジネス情報学部）、平林知巳委員（NPO 法人伊勢崎西部スポーツクラブ理事長）、小野里順子委員（うすねスポーツクラブ会長）小出利一委員（NPO 法人新町スポーツクラブ理事長）で、3 名とも JSPO 公認クラブマネージャーであり、基準を満たしている旨を説明する。
- ⑤ 県外からは、同様に昨年度講師を勤めていただいた、谷塚徹様（東洋大学健康スポーツ学部に勤務）にお願いしたい旨を説明する。

【決定事項】

- ① 講師として上記④・⑤の 5 名が承認される。

- ② 谷塚先生については、小出委員に調整を依頼する。仮に了解を得られない場合は、他の講師を人選する。
- ③ ケーススタディの担当者については、平林知巳委員、小野里順子委員、小出利一委員の3者で協議を行い、事務局に回答する。
- ④ 講師個票の提出が必要となることを、ご承知おきいただきたい。

4) 広報誌「令和6年度号総合型地域スポーツクラブだより」の作成について

【事務局からの説明・提案】

- ① 広報誌「令和6年度号総合型地域スポーツクラブだより」(校正案)について説明する。
- ② 資料表紙については、令和5年度号と同じで、「活動写真とコメント」「はじめに」を掲示し、レイアウトについては、業者に一任したいと考えている。
- ③ 総合型地域スポーツクラブ紹介では、「連絡先を問合せ先に変更」「全国登録の有無」「主な活動曜日」を追加したい旨を説明する。
- ④ 構成案の1(表紙)、2(群馬県内の総合型地域スポーツクラブ)について審議をお願いしたい。

【委員からの質問や意見】

小出委員より

- ・全国登録の有無については、県の連絡協議会の正会員は全国登録しているクラブである。全国登録できていないクラブは準登録クラブとなる。最初から全国登録クラブと準登録クラブに分けなければメリットが解らない。全国登録しているクラブを上段に、準登録クラブを下段に配置した方が分かりやすい。上段に上がって全国登録を目指そうとしないクラブに合わせるのか。全国登録して頑張っているクラブに合わせるかという考え方になる。感情的にやることではないが、全国登録の有無を明確にしておく必要がある。全国なら「全」、県なら「県」の書き方で良いのでは。
- ・連絡先についてはHPからの連絡が主である。電話番号ではなくて、HPとメールアドレスに変更すべきと思う。クラブ名の下に住所が記載されている横若しくは下に、HPの有無がわかる方が良いのでは。(携帯番号は個人情報なので止めるべきではないか。)
- ・メールアドレスの間違えには十分な注意が必要である。

小野里委員より

- ・分けてしまうことによって、疎外を感じてしまうことが気になる。全国登録はしないが、県の連絡協議会への加盟は継続したい意向がある。

平林委員より

- ・行政として部活動の地域移行を判断するには必要かと思う。

高田委員より

- ・昨年度、登録審査委員会を開催し全国登録のための手続きを踏んでいるので、その証を載せることは有と思う。

【決定事項】

- ① 電話番号については、電話番号欄をHPの有無やメールアドレスに変更する。主な活動の曜日を記載する。
- ② 全国登録の有無については、全国登録されているかいなかの表記を行う。どのような形で表記するかについてできるだけ多くに人たちに資料を見てもらい、肯定的に捉えてもらうためには、セルを設けて○を付ける。書き方については事務局で工夫し、グラについては委員に周知する。

【事務局からの説明・提案】

- ① 総合型地域スポーツクラブのQ&Aのコーナーを新設したい旨を説明する。
 - ・今どうして総合型地域スポーツクラブなのか。(Q)
 - ・総合型地域スポーツクラブをつくるにはどうしたら良いのか。(Q)
 - ・総合型地域スポーツクラブのメリットは何か。(Q)
- ② (A) 回答は、「JSPO 総合型クラブ創設ガイド」より作成した旨を説明する。
- ③ 掲載場所は、中両面見開きに掲載したい。

【委員からの質問や意見】

小出委員より

- ・「JSPO 総合型クラブ創設ガイド」は今年度改定される。内容は部活動の地域移行を念頭にした改定となる。スポーツ庁国庫補助事業令和6年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業で作成するため今年度中に発行する。
- ・Q&Aの内容は原則的なことなので、この文章が変わることはないと思う。ただ、この文章文字をそのまま載せることは避けるべきと思う。QRコードを使用し、JSPOで作成している動画等を参考にする方法ではどうか。掲載場所はどこに載せるのか。

【回答】

- ・掲載場所は、中両面見開きのMAPを削除し使用したい。MAPを削除することは特に問題はない。

平林委員より

- ・クラブ立ち上げの相談について、地域を巡回し立ち上げのアドバイスを行ってきたが、なかなかクラブが立ち上がらない。会員の高齢化により戻すばみになり脱退するクラブが増えている状況もある。積極的にクラブを立ち上げる方向に仕向ける方が良いと考える。部活動の地域連携にともない、総合型地域スポーツクラブが受け皿となり得る可能性があることから、立ち上げを支援していくことを絡めていく必要があるのでは。

【回答】

- ・部活動改革を進める切っ掛けとして、総合型地域スポーツクラブの立ち上げ、クラブの活性化を仕掛けることが必要となる。チャンスと前向きに捉えてれば、クラブ立ち上げの切っ掛けづくりに繋がればよいと思う。

【決定事項】

- ① マップを廃止して、Q&Aコーナーを膨らませて1ページ分をまかなう。
- ② 原則は変わらないので、原則の骨子を文字で表した上で、動画等の配信をなるべくQRコードから読みとれるように工夫する。

【事務局からの説明・提案】

- ① 総合型地域スポーツクラブを広く一般県民に理解してもらい、だれでもが参加できるように、情報を提供できるコーナーを新設することを説明する。
- ② 掲載内容は、アシスタントマネジャー養成講習会や、ブロック別事業、フォローアップセミナー等の情報も一般県民に発信したいと考えている。
- ③ 県教委・スポーツ振興課からの情報提供（部活動改革等）
- ④ 8月の後半にはゲラを委員に周知しその後業者へ発注したい。

【委員からの質問や意見】

小出委員より

- ・第2回目のJSPO 公認スタートコーチの日程が12月21日・22日になる。アシスタントマネジャーの資格はスポーツクラブ側としては必要であるが、スタートコーチのジュニア編も、全国登録するには公認スポーツ指導者の資格取得が求められている。9月からの募集になるので情報発信して欲しい。
- ・県スポーツ協会のイベント研修会等のHPに、QRコードが飛ぶようにすれば良いのではないか。

高田委員より

- ・部活動改革が、横断的に教育委員会と地域創生部がタッグを組んで進めていただいている姿は見えているので、ここ数年間で大きく様変わりしていると感じている。関係文書の投げかけ方については、県スポーツ協会の主管課がスポーツ振興課になるので、そこから健康体育課に流していただき、群馬県として、ある程度責任の所在がある文章を掲載していただくことをお願いしたい。
- ・QRコードからそのサイトに飛んでいくという解釈からすると、研修会の情報は、随時更新して情報が見られるのか。発注するタイミングは、印刷物の中には要項の情報は入っていない。要項や日程が決まるのが、更新をかけるタイミングであるとすれば、印刷を別途先に進められるのではないか。そこには、条件が必要になるのか。

【回答】

- ・例えば行事一覧を作って、行事が決定され次第随時変更していく。そのページに飛ぶ事は可能である。開催要項に飛ぶ方法と違うが、行事の最新版を常に追記する方法で情報提供することはできる。ブロック別の事業はまだ決定していないので別のQRコードにして、他の研修会関係は、要項にアクセスできるように工夫すれば、早めに発信することはできると思う。QRコードをどこに紐付けるかで結論が導かれる。県スポーツ協会のHPを、今の流れに即したものに変更したい。クラブ立ち上げのQ&Aについても同様に、日本ス

ポーツ協会のHPに詳しく載っているのでどこに紐付けるか事務局で預かりたい。

【決定事項】

- ① 校正案については今後検討を要する内容もあるが承認される。
 - ② 目安として8月中には業者へ発注したい。
 - ③ 県教委やスポーツ振興課からの情報提供のコーナーを昨年度と同様に承認される。
- 5) その他
- ・特になし
- 7 その他
- 1) ・滋賀県スポーツ指導者セミナー〔第5回～8回〕について
- ・小出委員より令和6年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業を活用し、中央の有名な講師に依頼し、オンラインで実施している旨の情報提供があった。

以上



第2回群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議 議事要旨

日 時：令和6年9月20日（金） 14：00から

会 場：群馬県庁 20階 201会議室

出席者：神久知巳委員、菅谷美沙都委員、蜂須賀信也委員、中澤則行委員、狩野誠委員、小野里順子委員、平林知巳委員、小出利一委員、奈良吉造委員、小林秀光委員、高田勉委員

欠席者：橋憲市委員

オブザーバー：六本木哲弥主任（スポーツ振興課）、小林史尚指導主事（健康体育課）

事務局：小林武広課長、高橋舞主任（全体進行）、吉井均年度雇用職員（報告・記録）

※会議に先立ち、故蜂須聖司様の冥福をお祈り申し上げ黙禱を行う。

1 開 会

2 あいさつ

（公財）群馬県スポーツ協会 高田 勉 事務局長

- ① 基盤整備の事業については、令和3年度からスタートして4年目を迎える。ここ数年来、「各クラブの体力をしっかりと付けていくこと」が共通の話題で、委員の皆様から知恵を拝借しているところである。お陰様でクラブの実地調査にご協力頂きましたことで、各クラブからの色々な生の声が出てきている中では、いわゆるクラブの体力の部分が増えつつも浮き彫りになってきている。例えば「資金の面」「会員数の面」「部活動改革の一連の流れの中で、受け皿としての地域クラブの在り方」等の課題が出てきていると感じている。
- ② 今日の会議につきましては、次第にあるとおり下期に向けての打合せとなるので、是非宜しく願いしたい。

3 情報提供

1) 学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に係る進捗状況について（別紙資料）
【健康体育課小林指導主事からの説明】

※本資料は現在、県教委健康体育課とスポーツ振興課、県の総括コーディネーターで県内各市町村を訪問し配布している資料である。

① 国・県の動向について

ア) 令和5年度から7年度までが改革推進期間ということで、国が設定している中で群馬県も令和5年度に県の推進計画を作成し、実証事業を5市町村で行った。令和6年度は、地域スポーツクラブ活動体制整備事業として8市町村まで拡大した。その8市町村が様々な施策を講じながら実施している。また、それ以外でも、県地域スポーツクラブ活動体制整備検討委員会、WGを開催し、令和8年度以降について検討を行っている。ワークショップの開催、研修会への参加等を行っている。

イ) 7月 13 日に中高生の「生の声を聴く」ぐんま中高生ワークショップを開催したところ、参加者は中学生 11 名、高校生 9 名の参加があった。主な生の声として「専門的に教えて欲しい」「他校と活動・交流したい」「活動に係る費用等を補助してもらいたい」「充実した施設で活動したい」等の意見があった。全国でも県が主催して「生の声」を聴くことは初めてであり、今後の施策に繋げていきたい。

ウ) 昨年まで総括コーディネーターとして、小出委員 1 名で対応していたが、今年度からグンマ未来地域クラブ活動レターにあるように 6 名のコーディネーターが就任し、市町村を訪問しながら意見交換を現在行っている。

② 群馬県の方針 ～推進計画の確認～

ア) 部活動の地域移行の言葉から、「現在の部活動をそのまま地域に移行して、地域で部活動を行うという解釈」が多く、「地域にある活動に中学生が参加するという」発想にまだまたいたっていな現状が群馬県にはある。群馬県の推進計画では、「部活動を移行することではなく、地域にある所に中学生が参加する」計画である。全国から見ても先を見ずえた目的となっているので 3 点の柱の周知を図っていきたい。

イ) 推進目標については、本年度が改革推進期間 2 年目なので、各市町村において推進計画を策定し、協議会の実施をお願いしている。

③ 取組の基本方針

ア) 地域クラブの環境整備については、各市町村に個別の地域クラブ活動が多く存在している。しかしながら、それを統括する運営団体が群馬県では充実していないので、整備をお願いしている。

④ 市町村の取組～県推進計画から抜粋

ア) 運営団体・実施主体を各市町村に整備をお願いしている。総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、体育・スポーツ協会等様々な団体があると思うが、それらを統括する運営団体をイメージするために、手順を示した。多くの市町村が種目別等実施主体の組織に向けた準備であったり、実施主体の組織化に向け市町村は動いている状況である。

イ) 運営団体組織に向けた準備については、法人化という事で、NPO 法人、一般社団法人を登録する事によって、「何か問題が起きた時に個人の責任ではなく、団体として責任を取って欲しいという」ことをお願いしている。

⑤ 指導者の確保と質の向上

ア) 昨年度のアンケート結果から、35 市町村全てで「指導者がいなくて困っている」という回答を受け、現在県スポーツ振興課と協力しながら、「指導者登録制度（サポーターバンク）」を進めている。

イ) 群馬県として早急に実施しなければならないこととして、技術的な指導者も必要になることは当然であるが、それをサポートするボランティア的な立場の人であったり、学校や地域を繋ぐコーディネーターの人であったり、地域クラブの育成に必要な人材等、群馬県ではまだ少ない現状である。スポーツ協会と連携し育成の手立てを構築していきたい。

⑥ 今後の「群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業（実証事業）」

ア) 現在委託事業で8市町村と契約している。それぞれの市町村において金銭面でなかなか進まないという意見がある。スポーツ庁の予算で契約を行い、令和7年度には全ての市町村で実施できる予算の準備を行っている。

【まとめ】

ア) 残り5市町村になったが、それぞれの市町村の特徴に合わせて、「地域に応じたものをなんとかしていこう」組織立った形が見えるようになってきた。推進期間が来年度で終了してしまうが、少しずつ進み始めていると感じている。

4 報告事項

1) 地域スポーツ推進団体連絡会議構成員について

【事務局からの説明】

- ① 地域スポーツ推進団体連絡会議構成員についてですが、群馬県スポーツ推進委員協議会会長が蜂須聖司様から蜂須賀信也様に変更になった。その関係から、当協議会の委員についても、蜂須賀信也様に就任いただく事になり、既に、ご本人から登録審査委員会委員も含め、ご了解をいただいている旨を報告する。
- ② 登録審査委員会委員長には、菅谷美沙都委員が就任される。

2) 全国登録に向けた県内クラブの実施調査について

【事務局からの説明】

- ① 全国登録に向けた県内クラブの実施調査結果を、委員から提出いただいた「訪問報告書」を基に、4クラブでの視察内容を別紙の通りまとめた。
- ② いくつかのクラブからは、全国登録に向けた前向きな回答をいただいた。
- ③ 委員の皆様で、特に次年度に向けての実施方法や対象クラブの選出等で、意見も含め感想等があれば、事務局まで連絡をいただき、次年度に反映させたい。

3) 「令和6年度日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成コース」について

【事務局からの説明】

- ① 令和6年度 JSPO 公認アシスタントマネジャー養成養成講習会の日程表の説明。
- ② 第1回当会議において、開催要項、講師の人選等についてはご承認済み。
- ③ 谷塚講師への依頼及び、ケーススタディの担当者については、事務局及び講師間で協議し決定することとなっており、本日最終的日程表を提示。
- ④ JSPO への関係書類の提出が2ヶ月前となっており、既に8月23日付けで、提出済み。

4) 令和6年度ブロック別事業の実施について

【事務局からの説明】

- ① 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡会議事業となるが、県内を中毛・西毛・北毛・東毛の4ブロックに分け、地域スポーツの活動支援と地域のスポーツ環境の基盤強化の図るための事業として実施。

- ② 地域の課題の解決に向けた事業を各地区の代表委員中心に検討している。本日の会議までに実施済み若しくは実施予定の研修会等の開催要項と提示。既に終了した北毛ブロックの代表の小野里委員より説明。

【小野里委員より説明】

- 北毛ブロックでは2回の研修会を計画している。最初の事業として9月5日に開催した。JSPO 地域スポーツ推進部長金谷英信氏をお招きし、これからの地域スポーツのあり方として、学校部活動の問題等も含めて、社会性と経済性を両立したスポーツ・教育環境を見据えて、地域としてこれからのスポーツをどのように支えていくべきかの内容で講演をいただいた。北毛ブロックでは、「民と官と一緒に力を合わせて未来を共に作る」取り組みを行っており、登録の有無にかかわらず、地域のクラブと一緒に活動を行いながら、横の連携を図るコンセプトの下で実施している。
- 事例発表を、廃校となった穂高根小学校の教室を使って事業展開を行っている、穂高根小小石俊一代表より事例発表をいただいた。サッカー場を購入し整備するなど、幅広く活躍している人で、実際に行政としての立場と地域の企業として、スポーツを通じた話で、クロストークを通じながら話を進め、無事終了しました。
- ③ 東毛ブロックについては、要項の通り、9月28日(土)に、「プロバスケットボールチーム経営と地域活性化」と題し、群馬クレインサンダーズ運営会社社長である阿久澤毅氏に講演をいただく。
- ④ この後も、各ブロック別に研修会等が企画されるので、多くの皆様に参加いただきたい。
- ⑤ 今後の開催情報につきましては、後程ご審議いただく、広報誌令和6年総合型地域スポーツクラブだよりの「イベント・研修会の紹介」コーナーのQRコードよりご確認できる。

5) 登録・認証制度について

【事務局からの登録について説明】

- ① 登録手続きの流れ・スケジュールがJSPOから示された。登録システムにおける登録手続きフローイメージを提示。
- ② 9月から10月の間に、登録を希望されるクラブは、マイページより申請書類の提出が必要と説明。
- ③ 第1回当連絡会議でご承認済みであるが、その後の日程は下記の通りで、参考資料の中間支援組織登録審査委員会の事業の通りとなる。

【日程】

- 11月上旬：登録申請書の提出
- 11月中旬：全国登録クラブの実態調査
- 12月中旬：令和7年度事前書類審査
- 1月上旬：令和7年度全国登録審査委員会

- ④ 併せて、登録手続きの申請書類が煩雑で解らないという意見を受けて、「登録に向けての書類の作成及びシステムの使用方法について」のフォローアップを各ブロックで9月～10月の上旬に開催を予定。

【認証制度について SC 全国ネット副幹事長・広報部会長小出委員よりご説明】

【部活動地域移行の国の動向について説明】

- ① 部活動の地域連携や地域スポーツ・文化クラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備については、令和6年度の地域移行の予算で、全国510の市町村で実証実験を行っている。群馬県は8市町村で実施している。その中で重点地域という1千万円の委託金が出る施策については、全国7件が手を挙げている。
- ② 地域クラブ活動への移行に向けた実証事業が、令和7年度に国が用意しようとしている概算要求の69億円の内訳となる。実証実験する市町村が現在510であるが、最終年度になるので金額が大きくなっている。一番の問題は、令和7年度が改革推進期間の最終年度と「その後どうするか、特に何も見えていない状況であった」が、地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議が開催された。1点目は、スポーツ庁は令和2年度から実証実験を行ってきたので、令和2年から5年度にかけて行った課題の整理と解決策の検討。2点目は、令和8年度以降の地域クラブ活動への支援方策。3点目が、令和4年12月に出したガイドラインの見直しの論点整理の3点が検討事項である。その中にスポーツ部門のWGであり、8月29日に1回目、9月18日に2回目が開催された。その中の課題になったのは、「部活動地域移行」の呼称について、勘違いをされているので、「別の呼び方に変え必要があるのでは」という意見がある。令和8年度以降の進め方について、同じように国として指針を出すのかも議論されている。
- ③ 運営団体・実施団体の形態では、行政部局直轄運営、総合型地域スポーツクラブの運営、実施主体も総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団が多い。
- ④ 地域スポーツ連携促進会議については、日本スポーツ協会の中にあつたスポーツ少年団と地域スポーツクラブの組織を徐々にまとめていく会議が9月30日に開催される。
- ⑤ 市町村訪問で感じたことは、「学校の部活動を地域に丸投げする」というイメージを持っている人が、まだまだたくさんいる。群馬県内の市町村においても、勘違いしている。また、アンケートを実施しているが、直接中学生や高校生から意見を聞くことをされていない。指導者の育成についても、技術指導者的な議論が中心になっていて、運営主体をマネジメントする議論が薄い感じがする。

※スポーツ庁実行会議資料を是非参照して欲しい。

【認証制度について説明】

※未確定要素が多いため、取り扱い資料は部外秘として欲しい。

- ① 認証制度の基本方針、手続き、認証制度について、タイプ別認証規定等6項目につい

て各都道府県にアンケートを実施した。33 都道府県より回答があった。その中で、認証の有効期間、初年度のスケジュール、認定後の状況確認について質問があり、JSPO として（案）若しくは予定として示された。

- ② 認証制度の基本方針はターゲット、基準のポイント、想定の特権を掲げているが、費用の問題が大きすぎて、具体的な特権がなければ手を挙げるクラブはないというのが常任幹事会の見解である。この認証制度はスポーツ庁のスポーツ基本計画に記載されているため、作らないわけにはいかない制度である。
- ③ 制度をつくるところに反対はしないが、省庁間の調整をきちんと図り、特権を具体的にさせるように、今後議論を進めていきたい。

6) フォローアップセミナーについて

【事務局からの説明】

- ① フォローアップセミナー関係の講習会は、専門講師を招き、スポーツの地域課題の解決に向けた研修会を考えている。
- ② 日程や会場は既に、1月19日（日）群馬県庁 28 階の 281A 会議室で決定している。
- ③ 講師の人数や事業内容・方法等については、中間支援組織であります総合型地域スポーツクラブ連絡協議会で現在検討しており、決定次第、改めて案内する。
- ④ 当日は「フォローアップセミナー」終了後、群馬県庁 28 階の 281B 会議室で推進会議を計画している。

5 座長選出

- ・基盤強化事業の事務局が県スポーツ協会にあるため、高田事務局長を選出

6 議事

1) 「パラスポーツ実技研修会」について

【事務局からの説明・提案】

- ① 令和6年度ボッチャ・車椅子バスケットボール実技研修会の実施要項を提示。
- ② パラスポーツ実技研修会の実施について、第1回当連絡会議において、承認済みのため、実施要項（案）を提案。パラスポーツ協会の奈良事務局長（委員）と数回協議を重ね作成した。
- ③ バリアフリー社会が必要とする人々が自由に参加できるスポーツ環境を構築し、パラスポーツの普及を図る。また県内総合型地域スポーツクラブや他団体との「相互理解を深める」ことを目的としている。
- ④ 群馬県ボッチャ協会や群馬マジック車椅子バスケットボールクラブには、協力団体として講師や会場の設営等を依頼済み。
- ⑤ 申込みについては、QRコード、FAX、e-mail から。

【奈良委員より補足】

- ① 車椅子バスケットボールも楽しいので、体験としては良いと思う。また、ボッチャに

については奥深く、単純な競技ではないので、是非参加して欲しい。

【決定事項】

- ・令和6年度ボッチャ・車椅子バスケットボール実技研修会の実施要項について承認。

2) 広報誌「令和6年度総合型地域スポーツクラブ」について

【事務局からの説明・提案】

- ① 広報誌「令和6年度総合型地域スポーツクラブだより」の作成案になる。第1回の同委員会決定事項を反映し作成した。改めて決定事項について報告させていただくので確認をお願いしたい。

【確認事項】

- ・電話番号については、電話番号欄をHPの有無やメールアドレスに変更する。
 - ・主な活動の曜日を記載する。
 - ・全国登録の有無については、全国登録されているかいなかの表記を行う。どのような形で表記するかについてできるだけ多くに人たちに資料を見てもらい、肯定的に捉えてもらうためには、セルを設けて○を付けるなど、書き方については事務局で工夫する。グラについては委員に周知する。
 - ・県民の誰でもが参加できるイベント・研修会の紹介については、コーナーを設けた。QRコードから検索でき、QRコードの接続先は、県スポーツ協会のHPとする。
 - ・マップを廃止して、Q&Aコーナーについては、QRコードから読みとれるように工夫する。
- ② 県内の総合型地域スポーツクラブへは、校正を兼ねて、クラブ紹介の内容に誤字や間違い、追記等については依頼し、全クラブから回答がきている。
 - ③ 発行時期については、10月の上旬を目途に考えている。
 - ④ 以上広報誌について審議のほど、宜しくをお願いしたい。

【意見】

- ① QRコードのリンク先（県スポーツ協会・JSPOの区別）が分かるように記載しては。（高田委員）
- ② 「イベント・研修コーナーの横」「Q&Aコーナーの隣」の場所に記載すれば分かりやすいのでは。（小出委員）
- ③ イベント・研修コーナーの事業を紹介ごとに縦線がある。最後に記載されている、パラスポーツ実後研修会のQRコードだけと間違えてしまうのではないか。縦線や背景を入れない（平林委員）

【決定事項】

- ・広報誌「令和6年度総合型地域スポーツクラブだより」の内容について承認される。
- ・QRコードのリンク先については記載することで決定する。記載の場所や記載方法については、印刷業者と事務局で相談の上で決定する。

3) 国庫補助事業 令和6年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業 都道府県体育・スポーツ協会事業予算執行状況について

【事務局からの説明・提案】

- ① 第1回スポーツ推進団体連絡会議において、国庫補助事業令和6年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業都道府県体育・スポーツ協会事業予算については、過去毎年度使い切れていないとの意見を頂いたため、一度精査し、執行状況の適正管理を図るため、9月20日時点の支出状況並びに執行見込みを準備した。
- ② 現在の支出額は、261,515円で、今後の執行見込額は、1,408,875円で、合計が1,670,390円となり、残額見込みが、125,116円となる。約93%の執行見込みになる。(昨年度は72%)
- ③ 本予算は、スポーツによる地域課題の解決に向け、地域スポーツクラブと連携した取組や総合型クラブの自立的な運営を含む質的充実に向け取組を行うこととなっている。
- ④ 事務局が把握している各クラブの課題等では、自主財源確保の問題、会員数の確保、学校部活動の地域移行への対応等が意見として寄せられている。
- ⑤ 事務局としては、今後多少の増減は見込まれるが、約93%の執行見込みから考えると、参考資料にあるとおり、事業を確実に展開することで、各クラブの課題解決のヒントや自立的な運営を含む質的充実に向けた取組に繋げていければと考えている。つまり、新たな事業を追加して行わない。
- ⑥ JSPOへの決算報告は、令和7年2月末日までとなっているため、1月中には事業を終了したいと考えている。
- ⑦ 情報提供だが9月4日付けで、JSPOより執行見込に関する調査の依頼が、9月30日締切である。調査内容には、追加事業についても問いがあったが、先程説明した通り、今年度の事業をしっかり遂行することで、対応したい。

【意見】

- お願いであるが可能な限り、100%の執行して欲しい。仮に各都道府県が7%残すと約8千万円になってしまう。極力100%にしないと、今後更に配分額が減ってしまう。できる限り執行できる手立てを考えて欲しい。(小出委員)
- 93%の執行見込みの成績は全国的にみてどうなのか？(高田委員) 全体として93%は悪くない数字だと思う。今まで執行残が多くあったため、各都道府県に配布した総額が、国にからきたお金より4%オーバーしている現状がある。無駄に使う必要はないが、125,000円を是非使用して欲しい。(小出委員)

【決定事項】

- 国庫補助事業 令和6年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業 都道府県体育・スポーツ協会事業予算執行状況についてについて承認される。
- 今後委員の皆様から執行案があれば事務局の負担を考慮し、連絡をお願いしたい。

4) その他について

- ①「登録書類の作成及びシステムの使用方法について」のフォローアップについて、他のブロックの状況も知りたい。オンラインでの実施を考えている。(平林委員)

【事務局の考え】

- 登録実績のある委員さんに講師を務めていただきたい。自身が所属するブロックの講師が難しければ、他のブロックを担当する案もある。各ブロックの代表委員がクロスして講師を務めては。
- 日程及び講師が決定したら事務処理(経費支出)の関係があるので事務局まで連絡をいただきたい。

【決定事項】

- 北毛ブロックは10月7日(月)に実施し、講師を小出委員に依頼する。
- 総合型地域スポーツクラブ連絡協議会第3回常任委員会で決定させて頂きたい。

7 その他

【小出委員より】

- ① SportsJapan vol75号の26・27ページに新町スポーツクラブが40・47ページに埼玉県白岡SV(総合型地域スポーツクラブ)で部活動の地域移行に取り組んでいる記事が掲載されている。
- ②今年度から関東ブロッククラブネットワークアクションにおいて若者を取り込むため、「若者プロジェクト」が導入される。若者の派遣を依頼したが難しい状況があるので、大学関係者に依頼した。

8 閉会

以上

第3回群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議 議事要旨

日 時：令和7年1月19日（日） 15：35から

会 場：群馬県庁 28階 281B会議室

出席者：橋憲市委員、蜂須賀信也委員、中澤則行委員、狩野誠委員、小野里順子委員、平林知巳委員、小出利一委員、奈良吉造委員、小林秀光委員、高田勉委員

欠席者：神久直巳委員、菅谷美沙都委員

オブザーバー：六本木哲弥主任（スポーツ振興課）、小山靖弘指導主事（健康体育課）

事務局：小林武広課長、高橋舞主任（全体進行）、吉井均年度雇用職員（報告・記）

1 開 会

2 あいさつ

（公財）群馬県スポーツ協会 高田 勉 事務局長

① 前橋育成高等学校サッカー部の全国優勝について

※PK戦での勝利に対する、周辺関係者と「PK戦は残酷」だね！という話をした。

※育英高校のサッカー部の事を考えると、毎日生き生きしてしまう程、「スポーツの力」は計り知れないものがある。

② 基盤強化事業の視点は、「広く県民に」「健康寿命」「地域に根差した」と言うところで、前段のフォローアップセミナーで、クラブが「いかに地域に認知をもらうか」「地域に必要とされるかクラブになるために」等が単語として耳に入ってきた。講師を務めていただいた澁谷さんは、新潟県のスポーツ協会の課長で、長く総合型地域スポーツクラブに係わってきた方で、県スポーツ協会として「今後何ができるか」という意味で示唆にとんだ話を聞くことができた。「財源の確保」「人材の育成・伸長」が急務であり、いかに大切かと話をしていただいた。

③ 令和6年度のまとめ時期にきている。次年度に繋げるためにも、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたい。

3 報告事項

1) 「令和6年度ブロック別事業」について

【事務局からの説明】

・県内を中毛・北毛・西毛・東毛の4ブロックに分け、地域スポーツの活動支援と地域のスポーツ環境の基盤強化を図るための事業を実施しました。

① 北毛ブロックでは、昨年度に引き続きスポーツでの地域活性化！「未来創生リレーアクション」と題して開催された。本年度は、バスケットボールのプロチームである「みななみタウンの3×3」のエキシビジョンマッチを始め、北毛ブロック会員の得意分野について実施する体験ブースや健康ブースを設け、誰でもが参加できる「北毛ブロックフェスタ2024」と称して開催された。参加者数は240名の報告があった。

- ② 東毛ブロックでは、太田市を拠点に活躍しているプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」の阿久澤毅社長をお招きし、「プロバスケットチーム経営と地域活性化」と題して講演をいただいた。70名が参加し、クラブの経営という部分で、総合型クラブを運営しているクラブ代表やスタッフにとって参考になる講演となった。
 - ③ 西毛ブロック、中毛ブロックについては、今後実施予定。なお、1月14日（火）に実施予定でした中毛ブロックについては、講師の都合により延期となっている。
- ・各地区の代表委員さんを中心に、地域の課題の解決に向けた事業が展開され、大きな成果を得ることができたと考えている。

2) 「令和6年度日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成講習会」について

【事務局からの説明】

- ① 「令和6年度日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成講習会」の日程表になります。令和6年11月30日（土）・12月1日（日）の2日間、群馬県庁で、県内外から9名が参加し開催した。
- ② クラブマネジャー若しくは、アシスタントマネジャーの資格者を有していない県内クラブもまだ存在する。
- ③ 全国登録をしている17クラブについては、全てに有資格者が存在する。
- ④ 全クラブの質的充実と持続可能な運営を確保するためにも、クラブ運営の中心的人材の育成・養成は不可欠なので、令和7年度も実施できればと考えている。
- ⑤ また当講習会が、資格取得の場だけではなく、有資格者の更新研修（アップデート）として活用できればと考えているので、JSPOに確認していく。

3) 広報誌「令和6年度総合型地域スポーツクラブだより」について

【事務局からの説明】

- ① 委員の皆様を始め、群馬県教育委員会や地域創生部のご協力を頂き、10月中に関係機関等に配布することができた。毎年作成させていただく計画でなので、次年度の作成にむけ、皆様から忌憚のないご意見を事務局までいただきたい。

4) 全国登録クラブ実態調査会について

【事務局からの説明】

- ① 資料に記載されている4クラブ（内新規1クラブ）を対象に、登録審査委員により実施した。
- ② 委員の皆様には大変お忙しい中現地に赴き、貴重な意見等いただいた。
- ③ 全国登録に関する手続きについて、令和7年度の全国登録を行うクラブは、継続クラブ16、新規クラブ1の17クラブとなる。（昨年度は16クラブ）
- ④ 7年1月8日（水）・9日（木）の2日間、登録審査委員会における全国登録クラブの事前書類審査を実施した。
- ⑤ 登録・認証制度が運用されるにあたり、全国登録を目指す総合型スポーツクラブに対

し申請書提出後、審査委員会委員による審査会が1月23日（木）に実施される。

- ⑥ 登録審査委員会審査後、全国登録のクラブ認定リストを3月末までに総合型地域スポーツクラブ全国協議会（事務局：JSPO）へ申請を提出する。
- ⑦ 登録期間は令和7年4月1日～令和8年3月31日となる。
- ⑧ 本県の連絡協議会への加盟クラブが29クラブで、その内の約59%にあたる17クラブが全国登録クラブとなっているのが現状。
- ⑨ 群馬県が作成した群馬県スポーツ推進計画（令和3年～7年）によると、総合型クラブの設置数の目標が51クラブとなっている。
- ⑩ 「目標設置数に近づけるためになにが必要か」を委員の皆様からご意見をいただき、今後、ご議論を進めて行きたい。

5 議事

1) 令和6年度活動報告書の作成について

【事務局からの説明・提案】

- ① 活動報告書の作成については、「国庫補助事業」であることから、作成については義務化されている。また、スポーツによる地域課題の解決に向けた取組を一層推進していくためにも、「スポーツ庁国庫補助事業地域スポーツ推進体制基盤強化事業群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議活動報告書」の令和6年度版を作成したいと考えている。

【決定事項】

- ・令和6年度版を作成について承認される。

2) 令和6年度活動報告書の作成について

【事務局からの説明・提案】

- ① 活動報告書に掲載させていただく内容は、令和5年度版の「目次・体裁」に準じて、令和6年度の活動報告書も作成したいと考えているので、ご審議をお願いしたい。
- ② 承認いただければ座長を務めていただいている、高田事務局長には、あいさつ文のご準備をお願いしたい。

【決定事項】

- ・「あいさつ」について承認される。

ア) 「令和3年度の提言に対する令和6年度実績の振り返り」について

【事務局からの説明・提案】

- ① 昨年度は「行政機関並びに県スポーツ協会として多くの提言を達成するために財源の支援に努める」ご議論いただいた。今年度も同様の文章で良いか確認をお願いしたい。

【委員からの意見・質問】

（平林委員）

- ・2の「令和3年度の提言に対する令和6年度の実績の振り返り」について行わなわないと議論できないのではないかと。

(小出委員)

- 今出席されている委員が事業に携わった内容を言葉で表現し、事務局も出して合体させてはどうか。

【意見のまとめ】

- 令和6年度はどのようなことを行ったのか当時者が色々意見を出したものが、このリード文に作られるべきではないか。
- 今直接事業に携わった方がおられるならば意見を出し合い、本会議でだしていただき、それに事務局の案を合体させたもので、委員の皆さんに凶ってはいかがか。

【委員からの具体的な意見】

(小出委員)

- ① ア)「令和3年度の提言に対する令和5年度実績の振り返り」とイ)「計画したアクションプランに対する令和6年度実績評価」を一緒に議論してはいかがか。
- ② 事務局から説明があったので実施事業について理解することができた。これについて、他の言葉で付け加えることはないかを考える。
- ③ 目次をベースにして考えると、2月11日に「車椅子バスケットボールを実施するので、Ⅱ4に「インクルーシブ事業」か「パラスポーツスポーツ体験」の項立てが必要ではないかと思った。
- ④ アシスタントクラブマネジャーについては、参加者が少なかったが、各クラブに公認のアシスタントクラブマネジャーがいないところは、次年度は必ず受講するよう呼びかけたほうが良いと思う。その方法についても考えたほうが良いと思う。
- ⑤ 文字数が多いので、生成AIの導入を考えても良いのではないかと思った。
- ⑥ 全国登録クラブの実態調査に出向いたクラブの中で、様々な事業に参加しないクラブについては、自身のクラブのことだけしか考えていないように思う。西毛地区で会議を行っても意見交換にならない状況である。
- ⑦ 全国登録を行うクラブは6項目について自己点検評価を行っている。1項目の満点が4点で平均点の満点が4点になる。平均点が1.9以下クラブで今年度全国登録するクラブを除くと5クラブある。基盤事業の関係から登録クラブの質の向上はについて記載しても良いのではないかと思った。
- ⑧ 振り返りのところの1に「人材育成プログラム開発」が記載されているので、どこかに項立てするなりして、「登録クラブの質の向上」は、中間支援組織で特に登録審査委員会を記載しているので、記載したほうが良いと思った。

【⑧の意見のまとめ】

- ① 「クラブの体力をつける」「クラブの質の向上」すべての事業に掛かっていることであるが、特に際立たせるのであれば、その項を抜き出して掲載してはどうか。

【決定事項】

- ① 全国登録のクラブの「質の向上」について、まとめの文面の中に事務局で、全体に掛か

っている「クラブ体力・質の向上」に加え、抜き出しでどこかの項に記載する。

- ② 2月11日に「車椅子バスケットボールを実施するので、Ⅱ4に「インクルーシブ事業」か「パラスポーツスポーツ体験」を項目として記載する。
- ③ アシスタントマネジャー講習会については、登録審査している関係上、公認のアシスタントマネジャーの候補者が見えてこないのかと言うことは、「見えないのか」「ないのか」と言う話になるので、そこについて、「何かしらの呼びかけ」「課題意識を持ってもらう」ことが必要になる。
- ④ 次年度についてもアシスタントマネジャー講習会については継続して講習会を実施する。

【事務局から補足】

- ① 令和7年1月14日付けで、令和7年度も令和6年度に引き続き、「国庫補助事業地域スポーツクラブ環境基盤強化」として令和6年度と同規模の予算措置される旨の通知があったことを説明する。

(平林委員)

- ・12ページ「計画したアクションプランに対する令和6年度実績評価」の2、「子どもの体力向上等のプログラム開発と普及啓発」について、②と③が一向に進んでいない気がする。それを推進する手立てがあるのか。また、拡大解釈すると「子どもの体力向上等のプログラム開発」という気がする。1の「先進的な人材育成すべてのプログラム開発」に繋がると思うが、「若い世代をクラブにどう巻き込むか・若者の起用」ということで、「子どもの体力」に限定してしまうと、若者との接点を掴みづらい可能性があるので、「クラブ活動の運営面で若者とシンポジウムを行う」という形で、来年度に向けた機会を設けて、そのことが「人材の継続・育成」に繋がると思うので、盛り込んでみては。

【意見のまとめ】

- ① 「子どもの体力向上」に高校生や大学生を含めた「若者の力を借りる」ことを、次年度の課題にする。

(高田事務局長)

- ・県教委が実施した、「ワークショップ」が2-③に該当する事業を、県教委が実施したと感じていたが、もし合致しているのであれば評価がC→B・Aになるのではないかと、県教委小山指導主事に質問を行う。

(回答)

- ① 県スポーツ振興課と共催で実施しました。「活動に興味のある生徒たちが」という点は合致している。
- ② プログラム開発と普及啓発については合致していない。シンポジウムの時点で部活動の地域移行のことにについて、意見が言いたい中学生や高校生が自ら参加した(高校生9名・中学生11名)「今後学校の放課後の部活動を地域展開したい時に何がしたい」と言う事だけにスポットを当てて実施した。

- ③ 新潟県が若返っている大きな要因は、「クラブの運営に若い人たち」を参加させている事にある。我々のクラブにおいては、若い子達が参画するためのアプローチの仕方とかを伝えることが重要である。
- ④ 宮城県ではスポーツ少年団として施策で積極的に受け入れているこのことが、団員が増えている要因である。少年団で育った子どもたちを、将来地域で活躍する場を与えることが少年団の使命にもなっている。それらを含めて群馬版「プログラム構成」をつくる事が必要と考える。
- ⑤ 今の大学生はコロナ禍で育ったのでたくさんの人達との交流を欲している。「片方が欲している、我々は若い人達の参加を願っている。」この双方をマッチングさせるプログラムを考える事が良いと思う。

【意見のまとめ】

- ① 高校生との連携ではなくて、表題の大きなタイトルが、「プログラム開発と普及啓発」という事なので、県教委が実施したプログラムが合致するのと言う話と、「求めているもの」「求められているもの」のマッチングが課題ではないかという意見であった。
- ② 場を提供することは連絡会議の使命ではあると思う。また、どのような広報の仕方をするか等を組み立てて必要があると感じた。
- ③ 令和6年度版の報告書に、今のような内容を組み込むことを事務局で考えていただきたい。

【確認事項】

- ① 2の振り返りの上段の部分を上記の①～③の意見で集約する解釈で良いのか。と評価の部分も関連される事も想定される。
- ② 評価については、定年で行っているものなので、評価の観点が変わってしまうと前後の評価がしにくくなるので、評価については、基本的には項立てを変えない方が良いと思う。
- ③ 令和6年度の総括を落とし込んでいく。また、若い世代の取り込み方についても課題であると思うので、リード文や項立ての中に落とし込んでいく。要するに、「若年世代」とどのような形で融合していくかが課題と考える。
- ④ 変更点等を2月4日（火）に開催する第4回連絡会議に提案し、改めて審議をお願いしたい。

ウ「課題のスケジュール・アクションプラン実行スケジュール（案）」について

【事務局からの説明・提案】

- ① 評価については、委員から提出された評価を集約し、事務局案を作成させていただいた。また、「アクションプランに対する年間実績自己評価」「重点目標」について、どのように落とし込んでいくかご審議をお願いしたい。

【意見】

- ② 前段のフォローアップセミナーから本会議に至るまでの一連の流れが、ここに落とし込

まれる様な気がする。

【確認事項】

- ① 評価について、委員からの評価を集約したものであるので、提案通りで決定する。
- ② 実行スケジュールについては、令和7年度・8年度をどのようにしていくのか。項目はこのまま来ているので、それは、令和5・6・7・8と繋がって行くと思うので、「部活動の地域展開」等も含めて、色々な課題が地域スポーツクラブに求められていると思うので、ご意見をいただき、特段なければこの形で行きたい。
- ③ 令和6年度のまとめと令和7年度に向けての課題のまとめとしての項立てなので、ご意見があればいただきたい。

【意見】

小出委員より

- ① 「令和3年度の提言に対する令和6年度の振り返り」なので、表題からすると、「令和3年度に定めた提言」があって、これに対して振り返る形の文章の方が、読む人にとっては、読みやすいのではないかと思う。
- ② 提言毎（1・2・3に対して）、良かった点と課題点を記載した方が、読みやすいのではないかと思う

【決定事項】

- ① リード文と項立てを入れ替えることによって、前置きと結論に脈絡をそろえる。
- ② 前置として、良かった点と課題点を提言毎に記載する。

【議長による会議全体のまとめ】

- ① 全体としていくつか宿題や事務局に対する課題をいただいた。事務局も鋭意やっていくと思うので、是非期待をしつつ頑張って作っていただきたい。

3) その他

【報告・情報提供】

(小出委員)

- ① 令和6年度までは日本スポーツ少年団が実施している「日独スポーツ少年団同時交流」が今までは、日本スポーツ少年団に登録している、高校生から大学生までが対象でしたが、令和7年度からは総合型地域スポーツクラブで、令和6年度に全国登録しているクラブに所属していて、令和7年度も引き続き所属する者、所属するクラブの代表者が推薦し、全国ネットワークが認める者、大学・大学院生については参加も可能に変更される。
- ② 9月30日、1月27日に開催される少年団と総合型を今後どのようにしていくかの議論については、どんどん進んでいく事が予想され、一つにまとめられることになると思う。
- ③ 登録制度についても常任幹事会で議論され、令和12年度からクラブアドバイザーの配置については義務化されると思う。

- ④ 地域住民という定めは「住んでいるところ」と従来は限定していたが、近隣市町村を含めることに変更されると思う。
- ⑤ 安全管理体制という観点から、JSPO 公認スポーツ資格取得が必要とされる。但し、スポーツリーダーは除く。と言うルールに変更されていくと思う。

6 その他

【事務局からの説明】

- ① 情報提供になるが、昨日メールでご案内した第4回連絡会議の開催通知並びに出席依頼について、2月4日（火）14時00分より、群馬県庁20階201会議室で開催されるので、ご準備を宜しくお願いしたい。
- ② 「車椅子バスケットボール実技研修会」の案内を提示。ポッチャに引き続き、県パラスポーツ協会と共催で、NPO 法人新町スポーツクラブのご協力をいただき、令和7年2月11日（火・祝日）に高崎市立新町第一小学校体育館で開催される。ご参加をご希望される委員は要項の専用フォームからお申し込みください。

以上



第4回群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議 議事要旨

日 時：令和7年2月4日（火） 14：00から

会 場：群馬県庁 20階 201会議室

出席者：橋憲市委員、菅谷美沙都委員、蜂須賀信也委員、中澤則行委員、狩野誠委員、小野里順子委員、小出利一委員、小林秀光委員、高田勉委員

オブザーバー：代田英敏係長、六本木哲弥主任（スポーツ振興課）

事務局：小林武広スポーツ推進課長、高橋舞主任（全体進行）、

吉井均年度雇用職員（報告・記）

1 開 会

2 あいさつ

（公財）群馬県スポーツ協会 高田 勉 事務局長

- ①いよいよ最終回の会議となる。私自身4年間係らせていただいたが、色々なところで、色々な人の話を聞いて、「総合型地域スポーツクラブ」であり、「地域スポーツクラブ」に今後色々な形があるが、個々がどのように一本立ちしていくかがクラブの力であり、また、担当者が力を付けて市民権を得ていくことが特に重要になるとののではないかと考えている。
- ②今年度の報告書の作成について、前回の会議でご指摘いただいた意見を事務局でまとめましたので、委員皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思う。また、全国登録の認定についてもご意見をいただきたいので、よろしく願いしたい。

3 座長選出

4 議事

1) 令和6年度群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議報告書について

【事務局からの説明・提案】

- ・令和7年1月19日（日）に開催した第3回連絡会議において、活動報告書の作成について承認をいただいたので、本日は、報告書の内容についてご審議をお願いしたい。
- ア) 「令和3年度の提言に対する令和6年度実績の振返り」について

【事務局からの説明・提案】

※第3回連絡会議でご意見をいただいた内容を確認。

- ①第3回連絡会議において、あいさつ文については、座長にお願いすることで承認いただいたので、掲載した。
- ②1点目は目次について、11月3日に「ポッチャ実技研修会」、2月11日に「車椅子バスケットボール」を実施予定なので、Ⅱ4に項だてが必要ではないかと言うご意見をいただいた。
- ③2点目は、振り返りのところの1に「人材育成プログラム開発」が記載されているので、

どこかに項立てするなりして、「登録クラブの質の向上」を記載したほうが良いというご意見をいただいた。

- ④ 3点目は、全国登録のクラブの「質の向上」について、全体に掛かっている「クラブ体力・質の向上」を加え、まとめの文面の中に抜き出しでどこかの項に記載するというご意見をいただいた。
- ⑤ 4点目は、「若い世代の取り込み方」についても課題であると思ので、リード文や項立ての中に落とし込んでいくというご意見をいただいた。
- ⑤ 5点目は「令和3年度に定めた提言」があって、これに対して振り返る形の記事の方が、読む人にとっては読みやすいので、提言毎（1・2・に対して）に、良かった点と課題点を記載した方が、読みやすいのではないかとご意見をいただいた。

【提案】

- ① 1点目の目次については、Ⅱ－4実技研修会に実施種目を具体的に追記させていただいた。更に、目次のⅡ各種研修会、Ⅲ現地調査、Ⅳ－1全国登録クラブの実態調査についても、書き換えさせていただいた。
- ② 2・3点目の「クラブ体力・質の向上」については、2の令和3年度の提言に対する令和6年度実績の振返りに記載させていただいた。
- ③ 4・5点目については、提言毎（1・2・に対して）に、良かった点と課題点を記載し、リード文と項立てを入れ替えることによって、前置きと結論に脈絡をそろえた。

【委員からの意見・質問】

- ① 2－2の項目の評価が市町になっているが市町村に訂正する。

【決定事項】

※事務局の提案通りに承認される。

イ)「計画したアクションプランに対する令和6年度実績評価」について

【事務局からの説明・提案】

- ① 「各項の評価」「実績自己評価」については、第3回連絡会議で承認いただいているが、実績自己評価について、文言を整理させていただいたので、ご確認をお願いしたい。

【委員からの意見・質問】

- ① 特になし。

【決定事項】

※事務局の提案通りに承認される。

ウ)「課題のスケジュール・アクションプラン実行スケジュール」について

【事務局からの説明・提案】

※第3回連絡会議でご意見をいただいた内容を確認。

- ① 令和6年度の実績の振返りでも述べたが、若い世代の取り込み方についても課題であると思うので、リード文や項立ての中に落とし込んでいくというご意見をいただいた。
- ② 「実行スケジュールの評価」については、会議で承認いただいているが、令和7年度重

点項目について、文言を整理させていただいたので、ご確認をお願いしたい。

【提案】

- ①1点目については、1-②を「クラブ運営に若い人たちに参画してもらう」を新規に項立した。
- ②令和7年度に向けての重点目標に◎（「人材育成に必要な財源を支援する」「クラブ運営に若い人たちに参画してもらう」「各自治体は、総合型クラブが組織されていない地域に対して、スポーツ少年団、スポーツ推進委員を中心に地域スポーツクラブ育成を推進するための予算措置を行う」）を追記、その根拠の文言を整理させていただいた。
- ③地域スポーツ推進団体連絡会議の委員名簿になるので、お間違えがないか、確認をお願いしたい。

【委員からの意見・質問】

- ・重点項目の行政担当者に総合型クラブの理念や意義の後に、「並びに登録認証制度」を追記する。
- ・重点項目の2-④を1-②に訂正する。
- ・各クラブが今後継続していくためには、若者の力は欠かせないという課題は、スポーツ少年団も同様である。今後スポーツ少年団と総合型クラブが連携（融合）していくことを考えると、各クラブの後に「等」追記する。

【決定事項】

※他は事務局の提案通りに承認される。

2) 次に令和6年群馬県地域スポーツクラブ推進団体連絡会議活動について

【事務局からの説明・提案】

①スポーツ強化基盤強化事業について

ア) 7月9日（水）に第1回を開催させていただき、本日で第4回となる。

イ) 講習会関係では、今年度は「人材育成」と「全クラブの質的充実と持続可能なクラブ運営」をコンセプトに事業を進めてきたので、人材育成に向けた対策として、アシスタントマネジャー養成講習会や公認スタートコーチ（ジュニア・ユース）を開催することができた。

ウ) 全国登録を目指すクラブには、「公認クラブマネジャー並びにアシスタントマネジャー」の有資者の配置が望ましい」とされているため、令和7年度も「アシスタントマネジャー養成講習会」を公認スタートコーチ（ジュニア・ユース）開催したいと考えている。

エ) ※印のついている事業の講師や委員への謝金・旅費については、地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業委託料から支出されていることを説明する。

オ) 令和7年度基本的には、令和6年度事業を継続して実施させていただきたいと考えている。

②群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会事業について

ア) スポーツ強化基盤強化事業と関連があるので、令和6年度県総合型地域スポーツクラブ

連絡協議会事業報告書を資料提供した。

イ) 委員の皆様から今年度を振り返り、令和7年度への取組も含め、ご意見等があればお願いしたい。

【委員からの意見・質問】

①特になし。

【決定事項】

※事務局の提案通りに承認される。

3) その他

・特になし。

5 その他

【事務局からの説明】

- ① 県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会関係の事業ですが、令和7年度の全国登録を希望は29クラブ中既存クラブ16クラブ、新規クラブ1クラブの17クラブで、クラブから提出された申請書類に不備があり、5クラブが保留となっているが、本日本会議が終了後、第2回登録審査委員会を委員長一任で実施する旨を説明する。
- ② 2月11日(火・祝)に開催される「車椅子バスケットボール実技研修会」について案内を行う。

以上



Ⅱ 各種研修会

〈東毛地区ブロック研修会〉

- 1) 期 日 令和6年9月28日(土) 10:00~11:30
- 2) 場 所 尾島生涯学習センター 多目的ホール(太田市亀岡町63-1)
- 3) 参加者 70名
- 4) 概 要

【開会行事】

①あいさつ

- ・東毛地区ブロック 井出康弘代表

②講演

講演内容:「プロバスケットチーム経営と地域活性化」

講 師:プロバスケットボールチーム群馬クレインサンダーズ運営会社
社長 阿久澤毅氏

【事業主旨】

- ①太田市に活動拠点を置き、アリーナの新設、ダンスや照明といった試合中の演出に力を入れたことで観客動員数が大幅に増やすことが出来たとの説明がありました。
- ②選手の学校訪問をはじめ社会貢献活動を展開し、地域活性化に取り組んでいるとの紹介がありました。
- ③クラブの運営という視点から、資金の準備や使い方、選手のリクルート方法など具体的な説明がありました。

【事業効果】

- ①クラブの経営という部分では、総合型クラブを運営しているブロック内のクラブ代表やスタッフにとって参考になる講演内容でした。
- ②講師の阿久澤氏は高校体育の教員から、クラブ運営に参加した人物で、本人の専門は野球であったが、バスケットボールの経営責任者としての立場から得た、経験の一つ一つがすべて成功に結び付けているところに素晴らしさを感じました。この話を聞いて、勇気がわいた総合型クラブの関係者も多かったと思います。
- ③東毛ブロックとしては初めて研修事業として講演会を実施しましたが、企画の準備段階から、ブロック内の全クラブ(6クラブ)が参加して盛大な講演会が無事故で実施できたことはとても良かったと思っています。ブロック内のクラブ間交流が本格的に始動したように感じています。



<北毛地区ブロック研修会>

- 1) 期 日 令和6年12月1日(日) 11:00~13:00
- 2) 場 所 ZACROSアリーナぬまた(沼田市東原新町1801-1)
- 3) 参加者 240名
- 4) 概 要

【開会行事】

①あいさつ(来賓)

- ・北毛地区ブロック 小野里順子代表
- ・(公財)群馬県スポーツ協会 小林クラブアドバイザー
- ・沼田市長 星野稔氏

②全体レクリエーション(スローエアロビック)

【事業主旨】

○午前の部

- ・ショータイム:①ダンスステージショー(エアロビック、ダンス、よさこい他)
- ・ショータイム:②チアパフォーマン(チーム発表の最後に実施)
- ・ショータイム:③3×3エキシビジョンマッチ

○午後の部

- ・体験ブース:バスケット3×3、チアリーディング、リズムトレーニング、ノルディックウォーク、ボッチャ
- ・健康ブース:パーソナルトレーナーによる癒し処
レシピセラピストによる健康相談

【事業効果】

- ・今年度の本事業は、未来創生のために、リレーアクションとして、昨年度に引き続き開催した事業であります。その流れで培われた関係性をもとに北毛ブロックの会員のつながりやそれぞれ得意分野について実施しました。特に、エキシビジョンで実施しました、「MINAKAMITOWN. EXE3×3」は、現在みなかみ地域から世界で活躍しており、誇りに思うとともにバスケットボールというスポーツを通して、子どもたちや参加者や見学者等すべての世代に向け、力強い応援メッセージをいただきました。今回も、一般参加の方々も多数参加いただき、今後に向けた手応えを感じることができました。県内スポーツ団体関係者及び北毛ブロック内のクラブの協力を得て開催することができましたことに感謝申し上げます。

<西毛地区ブロック研修会>

1) 期 日 令和7年1月25日(土) 10:00~12:00

2) 場 所 高崎市立桜山小学校体育館

3) 参加者 54名

4) 概 要

開会行事

- ・一般社団法人OWENの本多さんより開会と諸注意、講師紹介が行われた。
- ・実技練習「みんなで楽しくリズムジャンプ」
- ・講師 スポーツリズムトレーニング協会 認定インストラクター 関口和洋氏

【事業主旨】

○実技練習(10:15~11:55)

1) スポーツリズムトレーニングとは

- ・リズム感を高める事で動きにメリハリがつき、運動パフォーマンスの向上や傷害予防に繋がるトレーニングで、アップテンポの音楽に合わせて跳んだり手足を動かしたりする事で、どんなスポーツに取り組む上で必要不可欠であるリズム感が育まれるトレーニングです。

2) 主な実技内容

- ・床に一本のベルトを置き、音楽に合わせてベルトを踏まないようにジャンプしたり、ステップしたりしてトレーニングが行われました。

①パージャンプ

②センターサイドジャンプ

③パークロス

④サイドランジ(連続・深く)

⑤パー×足入れ替え

⑥サイドリズム

⑦ランジ×肩甲骨

⑧サイド×頭肩叩

⑨パークロス×グッパー

⑩パー×頭肩クロス肩(手・手変)

⑪グッパー(足変)×頭肩クロス肩

- ・主にスポーツ少年団や主催したOwenスポーツクラブの子供だけでなく、引率の保護者も一緒に楽しく動いていました。

3) 質疑応答の後、参加者から講師にお礼を申し上げ解散。



<中毛地区ブロック研修会>

- 1) 期 日 令和7年2月20日(木) 13:30~16:00
- 2) 場 所 特定非営利活動法人群大クラブ クラブハウス及び活動施設
前橋市関根町2-2-11 関根ゴルフクラブ内
- 3) 参加者 5クラブ(6名)
- 4) 概 要

講演「群大クラブの取組」

講師 特定非営利活動法人群大クラブ 代表 柳川益美氏

【講演主旨】

- ①地域密着型健康スポーツランナーフォローアップセミナーとして当クラブを創設した。同時期に群馬大学医学部も参加し、生活習慣病への対応を両者で研究を行ったが、補助金が打ち切られると同時に医学部は撤退してしまった。吉岡町と連携して糖尿病対策に取り組んだが、自治体からの協力が得られなくなり取り止めとなってしまった。
- ②教員の働き方改革に端を発した中学校部活動の地域クラブへの移行問題については、各市町村の行政関係者は対応に苦慮していると同っている。これを恒久的に行うにはひとり一人の立場は非常に弱いので地域でできることを検証する事が必要と考えている。特に人的確保が必要と考えたと自治体と大学が連携する事も一つの方策ではないかと考える。技術指導や子ども達との活動の共有は大学生にもできる。大学生を体験的な科目として受け入れることで将来のスポーツマネジメントに繋がると考えている。
参加した各クラブからは、中学校の部活動として実施されていない種目についても、総合型スポーツクラブで受け入れられるような体制を整備されることが望ましいなどの意見も出された。
- ③総合型地域スポーツクラブがどうしたら今後発展できるのか。子ども達の声に対して地域が担いきれるか等、一つのクラブの問題ではなく先行投資が必要と考える。総合型地域スポーツクラブをマネジメントする立場になって、個人の問題ではなく全体の制度を求めていくことが重要ではないのかと考えている。

【施設見学】

- 群大クラブの活動施設(クラブハウス、児童クラブ、屋内外の複合型施設、新規クラブハウスの建設予定地)の視察を行った。

【事業効果】

- それぞれのクラブにおいてクラブを取り巻く環境など違うため、一様の活動形態とすることはできないが、他のクラブの視察により自己の総合型スポーツクラブはどのようにあるべきかを考えるきっかけとなる研修会となった。



令和6年度日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成講習会 概要

1. 目的 総合型地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう、クラブの経営資源を有効に活用し、円滑に運営するための基礎知識を有する人材の育成を図る。

1. 主催 公益財団法人 群馬県スポーツ協会

2. 日程 令和6年11月30日(土)～12月1日(日)

3. 会場 群馬県庁29階 294会議室
住所：前橋市大手町1丁目1番1号
電話：027-223-1111 (代表)

4. カリキュラム

<専門科目>：(35時間)

科目名	時間数		
	集合	自宅学習	計
地域スポーツクラブとは	3h	4.5h	7.5h
地域スポーツクラブの現状			
クラブマネジャーの役割	3h	4.5h	7.5h
クラブのつくり方	8h	12h	20h
クラブの運営			
計	14h	21h	35h

5. 参加数 9名

6. 参加費用 1,650円(税込み)

7. 講師：別紙参照(日程表)



令和6年度日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成コース 日程表

コース名	群馬県（専門科目集合講習）				
日程	1日目：11月30日（土）		2日目：12月1日（日）		
時間	科目	時間数	時間	科目	時間数
9:10	受付		9:10	受付	
9:30	オリエンテーション		9:20	◇クラブマネジャーの役割	3h
9:45	◇地域スポーツクラブとは ・地域スポーツクラブとは ・地域スポーツクラブの現状	3h		講師：東洋大学健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科 谷塚 哲	
	講師：上武大学ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科 菅谷 美沙都		12:20		
12:45	昼 食		12:20	昼 食	
13:45	◇ケーススタディ ・クラブのつくり方 ・クラブの運営	2h	13:20	◇ケーススタディ ・クラブのつくり方 ・クラブの運営	2h
15:45	講師：NPO法人 新町スポーツクラブ 小出 利一		15:20	休 憩	
15:50	◇ケーススタディ ・クラブのつくり方 ・クラブの運営	2h	15:25	◇ケーススタディ ・クラブのつくり方 ・クラブの運営	2h
17:50	講師：NPO法人 新町スポーツクラブ 小出 利一		17:25	休 憩	
	解 散		17:30	◇検定試験	1h
			18:30	解 散	

令和6年度 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
全国登録フォローアップセミナー①概要

1. 目的 全国登録手続きを行うにあたって、申請書類が多く・作成が煩雑である現状を踏まえ、できるだけ多くのクラブの登録を促進することを目的に希望するクラブを対象に4ブロック（東毛・中毛・西毛・北毛）毎に研修会を実施することで、円滑な手続きと登録クラブの増加を目指す。
2. 主催 公益財団法人 群馬県スポーツ協会
群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
3. 開催日時 中毛ブロック：令和6年10月16日（水） 10：00～11：30
14：00～15：30
北毛ブロック：令和6年10月22日（火） 9：30～10：30
西毛ブロック：令和6年10月22日（火） 13：00～14：00
4. 会場 中毛ブロック：伊勢崎西部スポーツクラブハウス
北毛ブロック：グリフェデュケーションビル
西毛ブロック：新町スポーツクラブハウス「自遊空間」みちくさ
5. 実施内容 ①全国登録に向けての書類の作成及びシステムの使用方法について
②全国登録申請作業における留意点について
③公益財団法人日本スポーツ協会の動きについて
④その他
6. 参加クラブ 中毛ブロック：オンライン：4クラブ
対面：2クラブ
北毛ブロック：対面：4クラブ
西毛ブロック：オンライン：7クラブ
7. 講師 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 平林 知巳氏
同 副会長 小出 利一氏

<フォローアップセミナー②>

1) 期 日 令和7年1月19日(日) 12:30~15:00

2) 場 所 群馬県庁 28階 281A会議室

3) 参加者 20名

4) 概 要

【開会行事】

①あいさつ

- ・県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 平林知巳会長
- ・県スポーツ協会 高田勉事務局長

②講演

講演内容：「自立的な運営及び持続可能なクラブを目指して」

講 師：(公財)新潟県スポーツ協会 スポーツ推進課 澁谷健一課長

【事業主旨】

①講演(12:45~13:40)

②質疑応答

③グループワーク 14:00~14:50(発表時間も含む)

【手順】

- ・A班・B班に分かれて、A：平林、B：小野里がまとめ役として進行を行う。
- ・各グループ、司会と発表者を決めてから、参加者同士の交流を図るため自己紹介を行う。5分間各自で「持続可能なクラブ作り」について考え、まとめたものを発表するスタイルで行われた。
- ・それぞれの班でまとめたものを発表者が全体で発表を行う。

※発表内容は別紙

④参加者代表謝辞

- ・小出副会長から、澁谷氏に対してお礼の言葉を申し述べる。
隣接県でもあるので、今後とも情報交換や連携を強くお願いしたい。

終 了 15:10

9 所 感

- ・今回の澁谷講師は、現役の新潟県スポーツ協会スポーツ推進課長で在り、日々、我々が抱えている問題についても実践されているため、大変参考になる話が聞くことができました。特に、お金の話では、多くのヒントを与えてくれることになったので、今後各クラブにおいて、参考になるのではないかと感じました。また、人材確保と育成についても興味深い内容を聞くことができました。インフルエンザの影響もあり、欠席者が出てしまっことは残念でした。

〈グループワークの内容〉

○テーマ

「持続可能なクラブづくりについて」

○各班の意見

【A班】

- クラブ創設時の指導者が未だ活躍しているが高齢化が深刻であるため、次代の人材確保が重要である。利用者や会員の中から指導者を育成していくことが必要である。
- 自主財源の確保（会場使用料と施設の委託管理の問題）
- 地域のニーズを捉え、地元企業からのサポート（寄付金だけでなく、物のサポート、販売促進費等）を受ける工夫を考察する。
- 指導謝金の支払い方法を工夫する。（ボランティアでの指導者を活用する）
- お茶会等を企画し、安定的な会員確保のための意見交換を行い、確保に向けた方策を探る。
- 地元行政機関との連携を図り、行政が企画する教室や委託事業を行っていく。
- 若い年代の参加が鈍化しているので、人集めの事業やイベントを考える。

【B班】

- ボランティア指導者から有償ボランティアへの変更することで、指導者のやる気も引き出す。
- スタッフの高齢化は、現在の会員や利用者からスタッフを育成することで解消できるのではないか。
- 財源確保の一步として、参加費・活動費・月会費の見直しを行う事も必要ではないか。
- 多様なプログラムの実施により、活動資金の確保が容易になっている。
- クラブの認知度を上げることで、地元企業からの協賛が得られやすくなる。
- クラブを法人化し基盤整備強化を図ることで、幅広い世代から認知してもらい、参加の増加に繋げる。

○講師からのアドバイス

- 地域おこし協力隊や若者会議のメンバーにも参加を依頼し、活動自体を盛り上げる。
- 企業の販売促進費などを利用して、企業とクラブのコラボを上手くする。
- JCは財政支援の協力者になりえるので、接触を持った方が良い。
- ソフトウェア会社とeスポーツは意外な接点を持っているので利用価値がある。

以 上



- 1) 期 日 令和6年11月3日(土) 9:30~11:30
- 2) 場 所 ふれあいスポーツプラザ 本館1階 体育館
- 3) 参加者 35名
- 4) 概 要

- ① あいさつ (公財) 県スポーツ協会高田事務局長から、ボッチャ協会の講師や参加者に対する感謝のことばとともに、楽しく怪我無く研修会が進みますようよろしくお願いいたしますと挨拶があった。続いて、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会小出副会長から、子どもから高齢者、障がいのある方でも参加してもらえる競技であるので、ぜひ各クラブにおいても進んで取り組んでほしいと挨拶があった。
- ② 講師紹介
- ③ 実技研修会(4試合コート、各2名の講師配置)
 - ・1グループに参加者を2~3名に割り振り、8グループを編成し、4試合コートにおいてペア戦でゲームの進め方や審判方法を学ぶ。
 - ・偶数ナンバーのグループが移動して、相手を変えながらゲームを行う。
 - ・ゲームを進める中で、競技規則が適用される部分では、ゲームの進行を止めて説明。理解ができればゲームを続行。4エンドで終了。
- ④ 質疑応答・閉講式
 - ・ボッチャ協会の岩下理事長から全般的な競技上の注意や指導するときのポイントを話してもらった。また、参加者からは、どのようにすれば多くの点数が取れるかなど、ルールにのっとったコーチングについて質問が出された。
 - ・最後に、県スポーツ協会高田事務局長から、楽しく、怪我無く実技研修会が終われることを講師の皆様にご感謝するとともに、会場の提供に尽力いただいた群馬県パラスポーツ協会事務局の皆様にご礼申し上げ、閉講式のあいさつとした。
- ⑤ その他
 - ・事務連絡、
今回、午後に予定していた車椅子バスケットボールの実技研修会については、諸事情で延期となったことをお知らせし、再度西毛地区のブロック研修として実施する予定であることを参加者に伝え、終了とした。



令和6年度 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
車椅子バスケットボール実技研修会

1) 期 日 令和7年2月11日(火・祝) 9:30~12:00

2) 場 所 高崎市立新町第一小学校体育館

3) 参加者 38名

4) 概 要

① あいさつ 県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会平林会長より、パラスポーツへの理解を深めるため、前回実施しましたポッチャ実技研修会に引き続き、車椅子バスケットボールを企画しました。2029には全スポも開催されますので、障がい者やパラスポーツへの理解を深めていただきたい。

② 講師紹介

③ 実技研修会

○競技の概要

- ・最初に車椅子バスケットボール競技の概要、特有のルール(トラヴェリング・ダブルドリブルはなし)や障がいの程度による各選手の持ち点(1.0点から0.5点きざみで4.5点まで)等について、高橋代表より説明がありました。
- ・車椅子操作練習
参加者を車椅子に乗車させ、車椅子の操作方法の指導を行った後、指導者の模範操作を参考にし、「前進」「細かいターン」などの、競技ならではの動き練習を行いました。
- ・シュート練習
正面からのフリースロー、サイドから車椅子で移動しボールを受け取ってからシュートするドリブルシュートの練習を、2箇所のリンクを使い行いました。
- ・ゲーム
参加者を3チームに分け、各班に講師を配置し2回総当たりのゲームを行いました。なお主審や得点係等は他の運営スタッフが従事しました。

④ 質疑応答

- ・特に質問はありませんでしたが、群馬マジック車椅子バスケットボールクラブ高橋代表より、短時間の研修であったが、「車椅子の操作等の上達が著しい」とお褒めの言葉をいただきました。

⑤ 閉講式

- ・県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会小出副会長から、楽しく、怪我無く実技研修会が終われることを嬉しく思うとともに、講師の皆様や運営スタッフ、群馬県パラスポーツ協会の皆様に御礼申し上げる謝辞があり、修了した。



Ⅲ 現地調査

＜県内視察＞ 東毛ブロック

1 ちよだスポーツクラブ

- 1) 日 時 令和6年8月9日(金) 14:00~15:00
- 2) 会 場 KAKINUMAアクア(温水プール) 千代田町大字上五箇 600-2
- 3) 対応者 ちよだスポーツクラブクラブマネジャー 岡田幸雄氏
同 所長(兼任スポーツ振興係長) 坂川剛氏
- 4) 出席委員 狩野誠委員・奈良吉造委員・小林秀光委員
オブザーバー参加として県スポーツ協会 吉井均年度雇用職員
- 5) 日 程 13:50集合完了
14:00~15:00(見学・実態調査・意見交換等)
当日、見学予定の水泳教室については、熱中症予防の観点から教室は中止。一般開放は通常通り実施されていました。
- 6) 視察概要 ・進行役 小林秀光委員
・各委員、事務局から自己紹介

【活動概要の説明・運営上の課題と問題点】

- 立ち上げからの経緯を含めクラブの現状について簡単に報告(岡田事務局長)
 - ・平成22年2月28日にクラブ設立に向けての総会を行い、同時に連絡協議会に加入し、活動を始める。(旧日本体育協会の補助を受けて運営を行う)
活動当初から、スポーツ少年団指導者・町教委事務局員・町スポーツ協会役員が運営の中心となって活動していた。
 - ・現在は、スポーツ少年団6団体(ミニバスケットボール3団体、軟式野球、サッカー、レスリング)を中心に小学生専門部4種目(バドミントン、バレーボール、剣道、陸上)が活動している。また、大人の方では、太極拳2、ヨガ2、水泳等の6教室が開かれている。さらに、スポーツ吹き矢も継続している。
 - ・指導謝金については、基本受益者負担で支払いをしているが、大人の種目の場合は赤字になっている教室もあるが、ヨガ、太極拳、吹き矢については、何とか黒字で活動が継続できている。
 - ・全国登録については、総会ごとに議題として取り上げているが、会員からの積極的な意見は出ないのが現状で、いましばらくは様子見という状態である。
- クラブ運営上の課題と問題点について
 - ・町内に配布するポスターやチラシにおいて、集客を心掛けているが、人口の自

然減と参加者や指導者の高齢化が活動の停滞を招いている。

- 運営費において、町からの補助に頼ってみてはいかがかという意見もあるが、体育館・プール・グラウンド等の使用料は全て免除されているため、これ以上はむずかしいと思われる。
- 現在指導に当たっている指導者が参加者を募っているのが現状である。

【各委員からの質問と意見】

○小林委員

Q：全国登録についての追加説明

- 令和6年度4月現在、群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会に参加しているのは29クラブで、うち全国登録を申請したのは16クラブであった。
- 群馬県連絡協議会に加盟されているクラブについては、基本全国登録を目指すクラブと理解している。各クラブの事情で未だ登録できないところには、事の重要性について随時説明を行っている。

A：全国登録が始まる前から、総会等でも必ず議題に上げて会員の意見を集約しているが、残念ながら全面的な理解が得られない状態。全国SCの活動をするのに登録費で賄うことが良いとは理解できるのですが、未だ、自分たちのクラブに対するメリット論が強くなるのは残念なところだ。

○狩野委員

Q：スポーツ少年団の剣道には参加していないのか？

A：小学生の専門部として剣道は行っているのですが、スポーツ少年団には登録していないし、大会にも参加していない。剣道は週3回の活動で20：00までには終了、保護者とともに帰宅、大人の活動は子どもが帰ってから行っている。

Q：町民が約1万人というが、総合型のクラブとして剣道をはじめ各種目が行われていることは認知されているのか？

A：すべての町民に理解されているかは、わからないが、広報はしている。東西のこども園、同小学校、中学校には案内をしている。バドミントン部の男子のみだが、スポーツクラブで部活動の面倒を見ている。

○奈良委員

Q：町の事業として「健康づくり」の一環で健康福祉の観点から総合型クラブでの活動について案内しているか？

A：毎月発行している広報を使って、周知している。

Q：町内におられる障がい者に向けたアプローチは行っているか。

A：クラブの活動に参加されているパラアスリートはいない。

プール等は利用可能なようにしている。残念ながら利用者はない。生涯スポーツ向けに「モルック」を購入し、子どもから高齢者までが楽しめるよう準備はしてある。

○吉井年度雇用職員から

- ・指導者の高齢化に伴いクラブマネジャー（アシマネ）の代替わりが必要になってきているところ、昨年からアシスタントマネジャー養成講習会を復活した。地元で行うことにより、より安価で講習に臨める状態を作った。是非とも本年も開催するので11月30日・12月1日両日、県庁にお出かけいただきたい。
- ・中学校部活動の地域移行について、確認だが男子のバドミントンは継続、残念ながら女子は継続できなかった。
- ・群馬県スポーツ振興課で行うスポーツ指導者のバンクについて、その進捗状況について説明を行う。

【その他】

- ・本日は、熱中症アラート発令中につき、水泳教室は中止。また、グラウンドで行われていた中学生のサッカーについても体育館を開放して休憩時間を多くとったり、ゲーム中に水分補給時間を入れたりして工夫していた。予定よりも早めに切り上げ生徒を帰宅させていた。

15:00終了

＜県内視察＞ 東毛ブロック

1 非営利活動法人あいおいスポーツクラブ

- 1) 日 時 令和6年8月20日(火) 10:00~11:20
- 2) 会 場 桐生市相生町5-695 あいおいスポーツクラブクラブハウス
- 3) 対応者 あいおいスポーツクラブ理事長兼クラブマネジャー 蛭沼隆雄氏
同 中学部活動地域移行担当理事 蛭沼欣二氏
- 4) 出席委員 小出利一委員・菅谷美沙都委員・小林秀光委員
オブザーバー参加として県スポーツ協会 吉井均年度雇用職員
- 5) 日 程 9:50集合完了
10:00~11:20(実態調査・意見交換等)
- 6) 視察概要 ・進行役 小林秀光委員
・各委員から自己紹介
・事務所隣の講堂に移動。10時から行われた中年・高齢女性の健康体操を見学。(~10:20まで)講師を含め、16名参加
・再び事務所に戻り、蛭沼理事長から報告

【活動概要の説明・運営上の課題と問題点】

○立ち上げからの経緯を含めクラブの現状について簡単に報告(蛭沼理事長)

- ・平成14年から準備委員会を立ち上げ、クラブ設立に向けての準備を行う。
- ・平成18年~日本体育協会の支援を受けて、あいおいスポーツクラブを設立。
- ・平成25年NPO法人格を取得し、現在に至る。
- ・令和6年4月現在、会員数は134名(内成人部門には67名が在籍。)
太極拳、新卓球、健康体操、ピラティス、バドミントン、ロコモ体操、エージレス体操、3B体操と子供を中心としたサッカー、バスケットボール、バレーボール、軟式野球、卓球が行われている。また、隣接している足利市、伊勢崎市、みどり市大間々町・笠懸町からも大人の会員は来ている。コロナの影響で激減した会員数であったが、再入会者が徐々に増えてきている。クラブの経営上は大変厳しい状況であることが分かった。
- ・中学校部活動の受け入れについては、地元相生中を中心にバスケットボール、軟式野球、卓球、バレーボールの4競技種目受け入れている。またバドミントンは、さらに強くなりたい希望の生徒が、「あいおいSC」の活動に参加している。

○クラブ運営上の課題・問題点

- ・創設当時から理事長を務めていた花房さんが引退され、蛭沼隆雄副理事長兼マネジャーが新理事長になった。これを機にクラブの全国登録についても積極的に考えていきたいとの発言があった。

【各委員からの質問と意見】

○小出委員

Q：熱中症対策について

A：小学生のサッカーは、土曜日の午前中早い時間帯に、中学生は相生中学のグラウンドにナイター設備を付けて暑さをしのいでいる、またバドミントンは市民体育館（エアコンあり）で実施している。クラブとしては、熱中症警戒アラートが出たときにはすぐさま反応して、対策を講じている。

Q：コロナ対策における持続化給付金は受けたのか？

A：会費を払って支えてくれた会員がいたため、持続化給付金の申請はしなかった。

Q：令和7年度のモデル事業を受ける予定はないか？

A：スポーツ庁からの2次募集についても情報は得ているが、市教育委員会・市部局のスポーツ振興課等との調整がうまくいかず、断念している。
小出氏から情報として、みなかみ町では、MINAKAMITOWNスポーツクラブを利用して事業を進めていき、伊勢崎市では、すでに市内のクラブと連携して行っている。群馬県内35市町村の内8市町村しか実証実験が行われていないのですべての市町村で取り組んでもらえるようになってほしい。

○小林委員

Q：あいおいスポーツクラブは、全国登録が始まって以来、県登録にとどまっていたが、令和7年度からは全国登録してみたいか？

A：蛭沼理事長から積極的に登録の方向でクラブ内の役員にも理解を取る予定。小林氏からNPO法人化しているので、登録に必要な書類のほとんどが、年1回行われている総会において、使用されている書類で申請できることを説明。

○菅谷委員

Q：桐生市以外から参加の会員がいるようだが、会員になった理由はあるか？

A：クラブの指導者としてお願いする講師が伊勢崎や足利に住んでおり、桐生あいおいSCで活動していることを知った参加者が講師を追いかける形で入会してくるケースもある。

Q：会費の値上げについては、どのように考えているか？

A：発足当初から値上げをせずにやってきたが、限界があるので、会員の意向も聞きながら行っていきたい。

○小出委員

・会費の値上げで一番大切なことは、会員に理解してもらうこと。謝金をもらわないで指導している指導者も多いと思う。しっかりと責任もって行ってもらうには、謝金を払うべき。お金の流れがわかれば、値上げされても必要な

お金であれば出してくれる方がほとんどだ。

○吉井年度雇用職員

- 指導者確保の観点から、今年もアシスタントマネジャーの講習会を行う。すでに資格を持っている方も再教育の意味で受けられてもよいと思うので、後日ご案内する要項に沿ってお申し込みいただきたい。

○全国登録について小出委員より説明

- 全国登録について、小出委員から個別のクラブにメリットはないと説明した。しかし、全国登録するための様々な条件をクリアしたクラブで組織した全国協議会が組織できたことで、都道府県の間支援組織を強化するためにスポーツ庁から予算が確保され「地域スポーツクラブ推進団体連絡会議」が運営できていることを説明した。また、現在、あいおいスポーツクラブとして全国登録する際に不足している項目は「ガバナンスコード」の取得だけであることも併せて説明した。

【部活動の地域移行について】

- 蛭沼理事(理事長の弟)を部活動地域移行担当として、来年度から桐生市として検討している実証実験の受け皿になるための準備を行っている。現在、バドミントンなど数種目を移行の受け皿として活動している。来年度から女子バレーボール部が廃部になる学校もあることから女子バレーボール教室も開始するために準備している。
- 今後の全国登録と中学校部活動の移行についての問題点を継続的に相談に乗ってもらいたいと要望があり、終了となった。

11:20終了

＜県内視察＞ 東毛ブロック

1 群馬国際スポーツ交流会（インテル大泉）

- 1) 日 時 令和6年8月24日（土）20：00～21：00
- 2) 会 場 邑楽町スポーツレクリエーション広場（グラウンド）
邑楽郡邑楽町篠塚 1445
- 3) 対応者 群馬国際スポーツ交流会 菊田博之代表
- 4) 出席委員 小出利一委員・平林知巳委員・小林秀光委員
オブザーバー参加として県スポーツ協会 吉井均年度雇用職員
- 5) 日 程 19：30集合完了
19：40～20：50（実態調査・意見交換等）
当日、見学予定の7人制サッカーについては、雷雨のため中止。
予定を変更して、19：40～20：50まで邑楽町体育館会議実態
調査並びに意見交換を行う。
- 6) 視察概要 ・進行役 小林秀光委員
・各委員から自己紹介

【活動概要の説明・運営上の課題と問題点】

○立ち上げからの経緯を含めクラブの現状について簡単に報告（菊田代表）

- ・コロナの影響もあったが、会員数は全体では70名、うち小学生が20名程度。
活動種目は、7人制のサッカー、3人制の成人男・女のバスケットボール、さら
に、小学生を中心としたミニバスケットボール、フットゴルフ等を行っている。
- ・全国登録については、令和6年度登録をするときに、クラブの名称と約款の部
分に差異が生じたため、令和6年度の登録は、見送ることにした。次年度に向
けて条件整備を行っている。〈再登録希望〉

○クラブ運営上の課題と問題点

- ・会員数の増加や7人制サッカー・3人制バスケットボールのランクアップを目
指しているが、選手獲得や指導者の確保に苦慮している。
- ・現在、運営面でのマネジメントは、全て菊田代表が一人で行っている状態なの
で、今年度中には、アシスタントマネジャーの資格を持った人がクラブ運営に
加わってくれることになっているので期待したい。

【各委員からの質問と意見】

○平林委員

Q：単年度の収支について（令和5年度を例に）

A：令和5年度は、全体で300万円規模の活動費となった。小学生のサッカー
並びにミニバスについては、一人月額5,000円の会費を徴収している。
それにより、指導者謝金や会場使用料、遠征時のマイクロバスの借り上げ

代金について賄っている。7人制サッカーについては、応援企業とスポンサー契約をされていて補助をしてもらっているので会費の徴収していない。フットゴルフは、会場使用料は自己負担で練習や試合をするたびに参加者が支払っている。事務局運営については無償ボランティアで行っている。

○小出委員

Q：アシスタントマネジャーを取れそうな人はいるか？

本来のアシマネの業務について追加説明を行う。

A：大学卒業後位の若者が多く、選手を目指しているので運営に関われそうな人はいない。

○小林委員

Q：本年度全国登録ができなかった理由として、名称について約款にないクラブ名であったので、令和7年度の登録についてはどのように考えているのか？

A：令和6年度中に法人の役員会が開かれるので、その場所で約款に記載してある内容の変更を行うことになる、「群馬国際スポーツ交流会」の活動の中に総合型地域スポーツクラブとしての「インテル大泉」を入れる予定である。

○平林委員

Q：7人制サッカーの会場が、大泉町内ではなく、なぜ隣接の邑楽町なのか？

A：大泉町には、人工芝のサッカー会場がなく、大会が人工芝で行っているので、借用している。また、7人制サッカーでは関東レベルでの優勝を目指しており、練習から人工芝になじむ必要がある。

【部活動の地域移行について】

- 部活動移行に係る大泉町の現状について（菊田代表から）
- 大泉町では教育委員会の中に、スポーツ振興課と部活動移行の委員会内部署があり、双方の連絡調整も密になっており、受け皿作りもうまくいくのではないかと思う。菊田氏本人も町体協（大泉町ではこの名称）の理事で在り、運営に参加する立場であることから、今後インテル大泉の重要性が増すと思われる。

20：50終了

＜県内視察＞ 中毛ブロック

1 吉岡総合スポーツクラブ

- 1) 日 時 令和6年8月30日(金) 10:00~11:20
- 2) 会 場 三津屋田端公会堂 吉岡町大久保 2162-1
- 3) 対応者 吉岡総合スポーツクラブ事務局長 内田伸一氏
同 理事(町議会議員) 春山和久氏
- 4) 出席委員 小野里順子委員・中澤則行委員・神久直巳委員・橋憲市委員・小林秀光委員
オブザーバー参加として県スポーツ協会スポーツ推進小林武弘課長
県スポーツ推進課 代田英俊補佐・六本木哲弥主任
- 5) 日 程 9:50集合完了
10:00~11:20(実態調査・意見交換・見学等)
当日、調査・意見交換と同時にスポーツ吹矢の練習は行う。会議終了後実技の見学を行う。各委員が参加者から個々に感想等を聴取。
- 6) 視察概要 ・進行役 小林秀光委員
・各委員、オブザーバーから自己紹介

【活動概要の説明・運営上の課題と問題点】

- 立ち上げからの経緯を含めクラブの現状について簡単に報告(内田代表)
- ・平成23年2月19日にクラブ設立に向けての総会を行い、同時に連絡協議会に加入し、活動を始める。(旧日本体育協会の補助を受けて運営を行う)
 - ・活動当初から、町のスポーツ推進委員・少年団指導者・町教委事務局員・町スポーツ協会役員が運営の中心となって活動している。
 - ・現在は、スポーツ少年団(複合団)が活動している。また、大人の方ではラジオ体操、スポーツ吹矢、スカイクロスの3種目で100名程度が活動している。
 - ・指導謝金については、支払っていない。
 - ・コロナ禍の影響で参加者の減少が目立ったが、徐々に回復傾向にある。また、ラジオ体操は年中無休で実施していて、町民の生活の一部となっている。
 - ・全国登録については、総会ごとに議題として提案しているが、会員からの積極的な意見は出ないので、いましばらくは様子見という状態となる。

○クラブ運営上の課題と問題点

- ・町全体でみると、スポーツに対する関心は、他の市町村に比べて高い方である。隣接している榛東村と協力して、小・中学生の体操教室を実施している。会場等では榛東村にお願いし、参加の子供たちと一緒に、吉岡町から指導者も出向いて行っている。
- ・ポスターやチラシにおいて、集客を心掛けているが、参加者の高齢化、更に指導者の高齢化が活動の停滞を招いている。また、運営費において、町からの補

助があり、格安で施設使用ができています。

【各委員からの質問と意見】

○神久委員

Q：スカイクロスについて、どのような競技なのか？

A：ニュースポーツの一つで、円盤状の薄いフリスビーのようなものをゴールのコーン目指して投げて、少ない回数でゴールすることを目指す競技である。障がいのある方も気軽に参加できる種目だ。

Q：スポーツ吹矢は健康上良いと言われているがどのような効果があるのか？

A：この種目を考案した方が「医師」であり、心肺機能のリハビリにも有効であることから全国的に広まった競技である。吉岡総合スポーツクラブの場合、高齢者が多く、中にはリハビリ目的で参加している人もいます。

○小野里委員

Q：クラブの運営方法について、どのようにしているのか。

A：会員として登録しているものは15名ですべて役員である。

種目ごとの指導謝金は払っていない。運営費として町から10万円の補助をいただいている。

○橋委員

Q：町内の子供たちへの教室等の開催はどのようなものがあるのか？

A：吉岡まつりの時にスポーツ推進委員と合同で、ニュースポーツの体験会をスタンプラリー方式で行っている。また、夏休みには、ラジオ体操への参加も呼び掛けている。さらに、榛東村との合同での体操教室では、ゆか・トランポリン・跳び箱等の指導を行っている。（参加者は月謝の支払いがある）

○中澤委員

Q：全国登録については、クラブとしてどのような見解を持っているのか？

A：現状では、コロナ禍の影響を受けて参加者が減少し、全国登録してクラブの存在をアピールする必要はないとの考えがある。ただし、財政的には登録料を払えない状態でもないので、総会等で理解を図っていききたい。

【その他】

○小林委員

- ・現在は内田さんが何役も兼ねており、次のリーダーになる方を今から育ててほしいという観点から、11月開催予定のアシスタントマネージャー講習コースへの参加を呼び掛ける。

【部活動の地域移行について】

○中学校の部活移行については、町当局・教育委員会・吉岡総合スポーツクラブを含めて連絡会を立ち上げているので、そこでの検討が待たれる。

11：20終了

IV 登録審査委員会

審査委員 名簿			
No.	役職	氏名	所属・役職
1	委員長	菅谷 美沙都	上武大学ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科講師
2	委員	神久 直巳	群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課 課長
3	委員	蜂須賀 信也	群馬県スポーツ推進委員協議会 会長
4	委員	小野里 順子	群馬県スポーツ協会 理事
5	委員	平林 知巳	群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長
6	委員	小出 利一	群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 副会長
7	委員	高田 勉	群馬県スポーツ協会 事務局長

1. 全国登録クラブの実態調査

(1) 対象クラブ・日程 次ページ参照

(2) 調査内容

- ① 活動概要の聞き取り
- ② 実施種目の見学・調査
- ③ 会則や定款の確認
- ④ クラブ代表者との打合せ
- ⑤ 意見交換
- ⑥ その他

○実態調査対象クラブ

〈北毛ブロック〉

うすねニュースポーツクラブ

- 1) 日 時：令和6年12月11日（水） 17：00～18：30
- 2) 会 場：薄根コミュニティセンター内うすね公民館
- 3) 対応者：小野里順子代表
- 4) 出席者：平林知巳委員、蜂須賀信也委員、高田勉委員、
小林秀光クラブアドバイザー（事務局）

5) 視察概要

- ①クラブが運営する事業と、クラブで育成した指導者による自主サークル活動が主体となっている。
- ②なにかあった際の責任の所在を明確にするためにも、今後自主サークルをクラブの事業として掲載できないか検討をしていただきたい。
- ③法人化について意見交換を行った、法人化による業務増加に不安を抱いている様子であった。リスクマネジメント、コンプライアンスの面からも今後検討していただきたい。
- ④地域の様々な団体と連携し、行政からの厚い信頼も感じることができた。この先も長きに渡り、地域住民の皆さんに、スポーツに親しむ機会・場を提供し続けることができるようお願いしたい。

〈東毛ブロック〉

特定非営利活動法人館林ジョイスポーツクラブ

- 1) 日 時：令和6年12月16日（月） 17：00～18：30
- 2) 会 場：館林市美園小学校体育館
- 3) 対応者：井出康弘代表
- 4) 出席者：菅谷美沙都委員、小野里順子、吉井均（事務局）

5) 視察概要

- ①小学生対象のキッズ教室（チャレンジスポーツ・エンジョイダンス・ファミリースポーツ）と成人対象の筋トレ教室、リズムフィットネス教室、リフレッシュヨガ教室を定期的開催している。美園小学校体育館にクラブの拠点が設置されている。
- ②クラブの課題として「指導者・後継者の確保」と「財務的資源の確保」の問題が挙げられた。各教室の指導もクラブマネジャーの一人に頼らざるを得ない状況であり、クラブの運営を行う人材と現場指導の人材両方を育てることが急務であるとのことであった。
- ③館林ジョイスポーツクラブはNPO法人を取得されており、クラブ関連の書類等は非常にしっかり作成されていると感じた。活動もキッズと高齢者中心の教室を展開して

おり、地域のニーズに合わせた活動をされている様子で、特に小学生向けの教室はニーズが高いと考える。しかし、会員の年齢層が二極化（子供と高齢者）しており、生産年齢人口の割合が極端に少ないのはクラブの課題であると感じた。

〈西毛ブロック〉

一般社団法人Fohlenスポーツアカデミー

- 1) 日 時：令和6年12月17日（火） 16：30～18：00
- 2) 会 場：Fohlenスポーツアカデミークラブハウス
- 3) 対応者：須田篤史マネジャー
- 4) 出席者：小出利一委員、小野里順子委員、小林秀光クラブアドバイザー（事務局）
- 5) 視察概要

- ①施設内にフィットネスルームもありサッカー場もあり施設は充実している。
- ②サッカーを中心にしたスポーツクラブとして活動している。良い点はしっかりとしたクラブハウスがあり、同じ場所でヨガ教室等も実施できる環境があることです。改善点としては、地域の人達との交流が少ないため地域の人達からの認知度が高める方法を考えて欲しいと思う。
- ③事業を継続していくには人材発掘が重要。生徒の保護者などに、上手くクラブの理念などを伝え一緒に活動していけるよう誘うことからスタートしてみるとよい。一人の指導員に頼りすぎず交代で指導できる様スタッフや指導員の人的育成が必要と思う。

〈中毛ブロック〉

Lion Networks

- 1) 日 時：令和6年12月19日（木） 15：30～17：00
- 2) 会 場：清心幼稚園
- 3) 対応者：小池真弘副理事長 倉尾正典スタッフ
- 4) 出席者：小出利一委員、小野里順子委員
小林秀光クラブアドバイザー・吉井均（事務局）

5) 視察概要

- ①2019年から活動を開始しており、今回初めて群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会に加盟とともに、全国登録申請を行う。
- ②活動は主に未就学児を対象とした種目にとらわれないキッズスクールと、小学生対象のサッカースクールの2種目を実施している。
- ③令和7年度からさらにバドミントンスクールを開講予定
- ④既にスポーツに限らず、農業、学童等、他分野でも地域で活動しており、中学部活動の地域展開にも期待が持てそうである。

事前書類審査 概要

1. 開催日：令和7年1月8日（水）・9日（木） 14：00～16：00
2. 開催場所：ぐんま総合スポーツセンター 本館 測定室
3. 出席者：菅谷美沙都委員長
蜂須賀信也審査委員
小野里順子審査委員
平林知巳審査委員
小出利一審査委員
4. 審査の重要ポイント
 - (1) 多種目・多世代になっているか？
 - (2) 公認クラブマネジャー並びに公認アシスタントマネジャーの配置がされているか？
 - (3) 役員の50%以上が地域住民か？
 - (4) 令和5年度の事業報告・決算、令和6年度の事業計画・予算案が総会で了承されているか？
 - (5) 種目ごとに公認スポーツ指導者が配置されているか？

令和6年度 第1回登録審査委員会 議事要旨

1. 開催日：令和7年1月23日（木）14：00～15：30
2. 開催場所：群馬県庁 昭和庁舎 第11会議室
3. 出席者：菅谷美沙都審査委員長、神久直巳審査委員、蜂須賀信也審査委員、
平林知巳審査委員、小野里順子審査委員、小出利一審査委員、
高田勉審査委員

事務局 六本木哲弥主任（県スポーツ振興課）
小林武広課長（県スポーツ協会スポーツ推進）
高橋舞主任（県スポーツ協会スポーツ推進課）
吉井均年度雇用職員（県スポーツ協会スポーツ推進課）
小林秀光クラブアドバイザー（県スポーツ協会）

4. 開会

5 あいさつ

高田事務局長より、1月8日（水）、9日（木）に実施した、全国登録クラブの事前書類審査を行った委員への御礼と本日の審査の慎重審議についてお願いがあった。

5. 令和6・7年度登録審査委員会の改選

登録審査委員については、群馬県総合型地域スポーツ連絡協議会登録審査細則第5条により、委員の任期は2年となっており、令和6年・7年度が改選年度となっている。そこで、令和6年7月13日に開催された群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会第2回常任委員会で、委員並びに委員長について審議を行い、7名の委員並びに菅谷美沙都委員の委員長が決定していることをご承知おきいただきたい。

6. オブザーバーの選出

連絡協議会登録審査細則第4条により、審査会の進行を補助するため、オブザーバーとして、スポーツ協会所属の小林アドバイザーの参加を認める。

7. 審査手順の説明

- ①令和7年度全国登録を希望しているクラブの資料について説明を行う。
- ②審査については、申請書類が提出された17クラブ（既存クラブ16、新規クラブ1）ごとに、審査情報を基に行う。
- ③本日は①から⑨までの資料を事前に事務局に提出いただき、1月8日（水）、9日（木）の2日間、5名の委員により事前書類審査を行った。指摘事項のあった内容を別紙事前書類審査チェックリストにまとめ、該当クラブに修正・再提出を依頼した。
- ④クラブ毎に申請書類が整っているかを審議いただき、全委員の承認をもって全国登録申請クラブと認める。

8. 審査

- ・No.1 特定非営利活動法人新町スポーツクラブ・・・・・・承認

- No.2 おおたスポーツ学校・・・・・・・・承認
 - No.3 うすねニュースポーツクラブ・・・・・・・・承認
 - No.4 特定非営利活動法人宮城スポーツクラブ・・・・・・・・承認
 - No.5 特定非営利活動法人群大クラブ
 - ア) 申請書類①2のチェック欄⑩に☑あり、不必要の為消去
 - イ) 申請書類②ー1 1 総会員数と申請書類⑦総会員数について確認が必要
 - No.6 特定非営利活動法人渋川いきいき健康スポーツクラブ
 - ※申請書類⑨PDFで資料の貼り付けが行われていないので確認が必要。
 - No.7 特定非営利活動法人伊勢崎西部スポーツクラブ・・・・・・・・承認
 - No.8 一般社団法人しょうわスポーツクラブ・・・・・・・・承認
 - No.9 特定非営利活動法人はるなスポーツクラブ・・・・・・・・承認
 - No.10 一般社団法人Fohlenスポーツアカデミー・・・・・・・・承認
 - No.11 特定非営利活動法人川場村スポーツクラブ・・・・・・・・承認
 - No.12 特定非営利活動法人館林ジョイススポーツクラブ・・・・・・・・承認
 - No.13 MINAKAMITOWNスポーツクラブ・・・・・・・・承認
 - No.14 一般社団法人 Owen スポーツクラブ
 - ア) 申請書類⑧議事録署名人の押印がないので、確認が必要。
 - No.15 一般社団法人総合型地域スポーツクラブ沼田・・・・・・・・承認
 - No.16 公益財団法人渋川市まちづくり財団しぶかわスポーツクラブ・・承認
- ※以上、16クラブについては令和6年度からの継続

○引き続き、新規登録クラブについての審査

- No.17 特定非営利活動法人Lion Networksについては、2019年に生涯スポーツ的なサッカークラブとして、特に女子サッカーに特化して設立されており現在は健康体操（園児の放課後教室）も実施している。令和6年11月30日・12月1日に開催した、アシスタントマネジャー養成講習会を受講している。申請書類も整っていることから全国登録について承認する。

※以上合計14クラブについては、日本スポーツ協会あて、登録料とともに一括で申請することで決定した。

※保留となった3クラブについては、申請書類の再提出を依頼し、審査委員会から菅谷委員長と事務局で協議を行い、結果を一任されているので、関係書類がそろい次第第2回登録審査委員会を開催する。

9.その他

○審査委員から下記の意見が出された。

- ①申請書類⑦の評価指数を用いた自クラブの自己点検・評価結果、平均点が2点以下のクラブに対して、改善指導する必要があるのではないかと、ご指摘をいただいた。

10.閉会

第2回登録審査委員会 議事要旨

1. 開催日：令和7年2月4日（火）14：45～15：30
 2. 開催場所：群馬県庁 20階 201会議室
 3. 出席者：菅谷美沙都審査委員長
事務局 小林武広課長（県スポーツ協会スポーツ推進課）
高橋舞主任（県スポーツ協会スポーツ推進課）
吉井均年度雇用職員（県スポーツ協会スポーツ推進課）
小林秀光（県スポーツ協会クラブアドバイザー）
 4. 開会
 5. 審査手順の説明
 - ① 第1回の登録審査委員会において、17クラブ中14クラブが承認され、3クラブが保留になった。
 - ② 委員長の机上に、前回同様に「令和7年度全国登録事前書類審査チェックリスト」配布させていただいた。
 - ③ 承認と記載された以外のクラブの審査を、「指摘事項」にそって審査をお願いしたい。
 - ④ さらに保留クラブがでた場合は、菅谷委員長と事務局で協議を行い承認したい。
 6. 審査
 - ・No.1 特定非営利活動法人群大クラブ・・・・・・・・・・・・承認
 - ・No.2 特定非営利活動法人渋川いきいき健康スポーツクラブ・・・承認
 - ・No.3 一般社団法人 Owen・・・・・・・・・・・・承認
- ※以上1月23日（木）第1回登録審査委員会において、保留になった3クラブについて審査を行い、全クラブの全国登録が承認された。
7. 閉会

編集後記

4年目になった本事業も、ほぼ予定通り完了を迎えます。

事務局にとりましては、「各事業を事務局が主体的に進める」といことも、この数年間の課題として取り組みました。もちろん、そこには、各関係団体選出の委員さんをはじめ、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の皆さまの協力なくしては遂行できませんでした。会議の運営、課題ごとの研修会等の運営、当初の提言に対する振り返りや、昨年に引き続き「アシスタントマネージャー養成講習会」、「登録審査委員会」なども無事事務を進め、なんとか報告書の完成に至りました。

さて、地域スポーツの課題は日々変化しており、部活動改革の波は、「地域移行」から「地域展開」にシフトしたことにより、軸足を学校に置いた「学校の主体性の重要性」や学習指導要領の解説にも「運動部の活動」に記載の改訂があります。

また、ここ数年の懸案でもある「登録認証制度」について、模索しながらも委員のご尽力により、その重要性が少しずつ浸透している印象があります。これにより、さらに全国登録のクラブが増えることを期待しております。

県スポーツ協会としましては、今後とも、従前にまして県当局や関係団体と連携し、諸課題の解決に向けて誠実に取り組みたいと考えます。本事業は来年度も実施予定と伺っております。従前にも増した充実した事業展開を進めていきたい所存です。

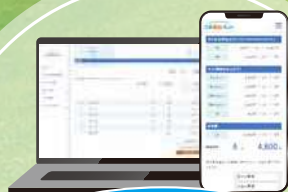
末筆ではありますが、本事業の地域スポーツ推進団体連絡会議の委員でありました、故蜂須聖司氏のご冥福をお祈り申し上げますとともに、本事業において多大なるご尽力をいただいた、県当局、群馬県総合型スポーツクラブ連絡協議会等関係各位に改めて感謝申し上げますとともに、今後ともご理解ご支援をお願い申し上げます報告書のまとめといたします。

公益財団法人群馬県スポーツ協会 事務局

スポーツ // 文化活動 // ボランティア

小さな掛金、大きな補償

スポーツ 安全保険[®]



スポあんネット

インターネットで
かんたん加入

団体活動のための総合補償

#スポーツチーム #大学クラブ #スポーツ少年団
#放課後事業 #総合型地域スポーツクラブ #教室
#部活動地域移行 #文化系サークル #ボランティア

保険の詳細内容、資料の請求は、
ホームページをご覧ください。



[引受幹事保険会社]
東京海上日動火災保険株式会社

[共同引受保険会社(2024年4月予定)]
あいおいニッセイ同和 / 共栄火災 / 損保ジャパン / 大同火災 /
東京海上日動 / 日新火災 / 三井住友海上 / AIG損保

 公益財団法人スポーツ安全協会

<https://www.sportsanzen.org>